特定非営利活動法人
ぷれいす東京

2022年度
年間活動報告書

目次

1. ご挨拶

30周年の曲がり角で 2

2. 部門報告

事務・総務 3

ホットライン 9

Sexual Health Project 19

Gay Friends for AIDS 22

ネスト 26

バディ 36

HIV陽性者と確認検査待ち/要確認検査/判定保留の人、その周囲の人への相談サービス 40

研究・研修 48

30周年の曲がり角で

認定NPO法人ぷれいす東京　代表　生島 嗣

2024年4月で、ぷれいす東京の活動は31年目に入る。

この写真は1995年5月に開催した第1回活動報告会のものだ。NGOの聖地、早稲田奉仕園で開催した。この30年という時間経過のなかで私たちは、1990年代から2023年まで、それぞれの時期に必要だと思われる支援サービスを必死に提供しながら、HIVと社会の大きな変化の目撃者となった。

1994年に横浜で国際エイズ会議が開かれた。アジアで初めて開催される国際学会であった。専門家たちは、専門家たちによる充実した会議の実現を目指していたと思うが、国際エイズ学会サイドが日本へ提示した開催条件は、これまでの国内の歴史にはなかったものだった。HIVに関連した当事者やコミュニティとの連携がなければ、日本での開催そのものについても再検討することになるというものだったと聞く。このような外圧を受けて、専門家、厚生省(当時)やエイズ予防財団などの組織委員会が動き、前代表の池上千寿子に声がかかり、そのブリッジ役を引き受けることになったという。

当時のNGOといえば、行政機関や権力者に対して、当事者の利益を引き出すという活動が当たり前の時代だった。なので一時期は、池上千寿子にコミュニティ側からの批判が飛んできたこともあった。

しかし、今、考えてみると、NGOにはいつの時にも社会で必要とされるニーズに応えていくという役割があり、ぷれいすにもそれを果たすという機会はこれまでにも何度かあったが、その原点が横浜会議にあったと思う。

国際エイズ学会が求める、HIV陽性者、女性、セックスワーカー、薬物使用者など、誰も排除しない会議の実現は、当事者間の分断にも橋をかける作業という、かつてない難しい作業であったと思う。

この1994年が転換点となり、国内のHIV/エイズの取り組みは、臨床、基礎、社会という立場を超えて、連動しながら推し進めていくことの重要さを認識し、その出発点となったように思う。今では当たり前なのだが、そうではなかった過去もあるのだ。

さらに1994年当時は、「エイズ感染爆発前夜」と警鐘を鳴らす専門家もいて、行政、医療はもちろん、経済界をも巻き込んで大きな恐怖と不安、そして災害時に近いような危機感に煽られていた。多数の企業が社内のHIV対策マニュアルを急遽つくった。社会の関心も高く、それなりにエイズ対策に予算がついていた時期でもある。当時、専門家として声を上げていた人たちの多くはこのフィールドから去ってしまっているのだが、結果から言えば、日本での感染爆発は起きなかった。

世界の中でも、アジアの中でも、我が国の穏やかな感染の広がりについては、専門家、行政、医療、市民などの努力が少なからず効果的であったのではと個人としては思うし、もっと肯定的な評価があってもしかるべきなのだが、「日本は先進国で唯一発症が増えている」などとミスリードな言説が流れていたのも、悲しい事実だ。

日本の感染拡大は大したことないねと海外やアジアのNGOから言われることもあるし、UNAIDSなど国連機関からの被援助対象国でもない。国内NGOはとても少ない予算で運営しており、アジアの国々の状況を羨ましく思うことさえある。

1996年～1997年頃は、差別や偏見も強い時期で、かつ、HIV陽性者たちにとってもシビアな時期で、私たちが知り合ったHIV陽性者の方々が亡くなることも多々ある時代だった。遠くから都内の拠点病院に通院するHIV陽性者たちのために、宿泊サービスを提供していた時期もある。宿泊を提供することで、少しでも経済的な負担を減らせればという目的だった。地方都市で診療を受けると、プライバシーのことが心配だからという人たちが多数存在した。

また医療機関からも、孤立している患者がいるので訪問できますか？という打診があり、とある病院の病棟に訪問を開始した。そこで見た現実は、これまでの人間関係を遮断し、最後の時間を過ごす人たち、次々と旅立っていく人たちであった。最後のタイミングは在宅で、自分の部屋で過ごしたいという方の在宅療養を支援したことも何度かあった。

しかし、1996年～1997年以降に治療が大きく進歩。早めに気づけば長く付き合える病気へと、病気の分脈がガラッと大きく変化した。近年では、感染に気づき、治療をすることで血液中のウイルスを検出限界以下にキープできれば、他人に感染を渡すこともなければ、男女間の子作りにおいて自然妊娠もできるようになり、元気な子どもが産まれてくる時代となった。

この30年を振り返ってみると、HIV感染が死を意味する病気だった時代から、U=U、治療をきちんとすれば周囲に感染させず、長く付き合っていける病気になることで、当事者の生活も大きく変化した。さらに、HIVの治療薬の一部を予防に役立てる、PrEPという新たな暴露前予防方法が登場した。2023年3月、新型コロナウイルスと共に過ごした3年間を通り抜け、サル痘(MPOX)という新たな感染症とその予防、社会の舵取りに直面している。

2012年に代表を交代したのだが、ビックネームである池上千寿子の後の代表はそれなりに大変だったと愚痴をこぼしつつ、周囲の皆様を心配させている、次世代にどのようにバトンを継ぐのかという大事業についても、この1年で何らかの形にしていきたいと願っている。

1. 2022年度のハイライト

●LGBTQ＋が依存症について語れる場「アディクション・ぽーと」スタート

福正 大輔

2022年5月から、Sexual Health Projectの仲間と活動を始めました。セクシュアリティとアディクションという2つのマイノリティの方の居場所が少ないと相談を受けたことがきっかけでした。日本全国からつながれるようにオンライン形式をとることにしました。「あたたかい雰囲気で安心して参加してもらえるように」を意識して、時間の遣い方・話しやすい形を模索しました。参加者から「多様な存在・多様な語り」があるのが“アディクション・ぽーと”のいいところと感想をもらい、活動の価値となりました。現在も月に一回、オンラインでお互いの顔を見ながら、近況や困っていることをシェアしています。継続するうちに「久しぶり、元気だった？」と自然に声がかかるようなコミュニティになってきました。くっついたり、はなれたり自由にできる関心共同体であることが私たちの特徴です。これからも参加するみんなにとって「居場所」となれるよう工夫を重ねていきたいと考えています。（P.19参照）

●ネスト・プログラムのハイブリッド化（パンフレット作成・環境整備）

加藤 力也

新型コロナの影響により対面からオンラインへと移行していたネスト・プログラムについて、感染の鎮静化に伴い対面開催の要望が多くの陽性者から出ている。一方で、オンラインによって繋がりを得た地方や海外在住の陽性者も多くいることから、対面とオンラインの両方を取り入れたハイブリッド開催が求められる状況となった。

快適なハイブリッド開催の環境を整えるため、これまで使用していた机や椅子などの備品を入れ替えたり、パーティションを増設したりなどした。また、大型のモニターや360度回転するカメラ付きスピーカーなど必要な機器を購入した。

オンラインで繋ぐことによりどこにいてもプログラムに参加することが可能になったため、東京近郊だけでなく全国に周知するための新しいパンフレットも制作した。

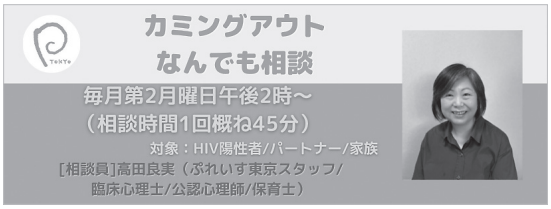
パンフレット掲載用写真

●カミングアウトなんでも相談

加藤 力也

HIVやセクシュアリティのことなど、カミングアウトに纏わることを気軽に相談してもらう窓口を、という趣旨で2022年6月にスタートした取り組みである。HIV陽性者の他、家族やパートナーなど広い層を対象にしている。ぷれいす東京スタッフで臨床心理士や公認心理師の資格を持った高田良美さんに担当していただき、毎週第2月曜日の午後に対面またはオンラインで実施している。

この相談を通じてぷれいす東京の相談員への相談サービスに繋がったり、ネスト・プログラムに参加するきっかけとなるケースも複数あった。ぷれいす東京へと繋がる新たな入り口として機能するのは想定外のメリットだった。担当者が語る動画を公開するなど、より多くの人々に利用してもらえるよう広報も工夫をしている。

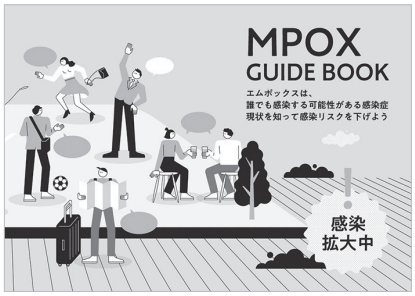


●mpox（サル痘）の情報発信について

生島 嗣

2022年6月にYouTubeで緊急学習会の配信を行いましたが、2023年に入り、東京周辺でmpox（サル痘）の報告が相次ぎました。そこで、webに新たに情報ページを開設しました。また、aktaの岩橋恒太さんが分担研究者となっている研究からの委託を受けて、HIV陽性者/PrEP利用者向けに冊子『MPOX GUIDE BOOK』を制作し、4000部をエイズ拠点病院やクリニックなどに配布するとともに、オンラインでもe-bookを公開しました。

海外で発表された論文を見ると、HIV陽性で免疫が低下している人がmpoxに罹患した場合、死亡事例も報告されているとあります。HIV検査の推奨とともに、mpoxの啓発も同時に行っていく必要がありそうです。また、国内でも安全なワクチンが接種できるようになったら良いと思っています。



2. ぷれいす東京について

○定例会議：事務局会議（毎月2回）、運営委員会（毎月1回）
理事会（随時）

○役員
理事：任期は 2 年で、2022 年度の理事は以下です。
・生島 嗣（代表を兼任）
・牧原 信也（運営委員長を兼任）
・池上 千寿子
・樽井 正義
・根岸 昌功
・兵藤 智佳
・山下 敏雅
・加藤 力也
・野坂 祐子
監事：常住 豊

○事務所スタッフ：フルタイム2名、パートタイム6名

○部門コーディネーター

〔ホットライン部門〕	阿曽、楊井、生島で共同運営
〔Sexual Health Project〕	福正
〔Gay Friends for AIDS 部門〕	生島、阿曽
〔ネスト部門〕	加藤、大島（2023年 2 月-）、原田
〔バディ部門〕	牧原
〔HIV 陽性者と周囲の人 / 確認検査待ちの人への相談サービス部門〕	生島、牧原
〔研究・研修部門〕	生島
〔事務・総務部門 経理担当〕	伊澤

○会員：255名（うち正会員64名、活動会員191名）

○賛助会員：個人54名
団体8団体：
株式会社アルバコーポレーション、
イプソスヘルスケアジャパンリミテッド、
サーチコア株式会社、株式会社GME、
中村キース・ヘリング美術館、
一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会、
医療法人社団マキマ会パーソナルヘルスクリニック、
momo合同会社
（50音順、敬称略）

●活動助成をいただいた団体
公益財団法人東京都福祉保健財団、
公益財団法人昭和池田記念財団、
社会福祉法人新宿区社会福祉協議会（備品整備・施設整備補助金）

●寄付をいただいた団体
ヴィーブヘルスケア株式会社、MSD株式会社、
LGBTハウジングファーストを考える会・東京、
オフィスTwo I、カトリックHIV/AIDSデスク、
ギリアド・サイエンシズ株式会社、
公益財団法人社会貢献支援財団、中外製薬株式会社、
日本聖公会東京教区、北陸HIV情報センター、
ヤンセンファーマ株式会社
（50音順、敬称略）

●募金箱などによるご寄付
中村キース・ヘリング美術館、News Café、
チャリボン（株式会社バリューブックス）（敬称略）
*チャリボン については、P.55をご覧ください。

多くの個人の方からもご寄付をいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼申し上げます。

3. ぷれいす東京の活動

●受託事業

厚生労働省

・「HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式
（関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業）」

東京都

・東京都 HIV/ エイズ電話相談
・東京都 HIV 検査情報 Web の制作
（http://tokyo-kensa.jp/）
都内各保健所や検査相談室における検査情報について、随時更新を行っています。また年に2回（東京都HIV検査・相談月間、東京都エイズ予防月間）、主にゲイ向けのポータルサイトや出会い系アプリなどに東京都HIV検査情報Webのバナー広告の制作・出稿を行っています。
・東京都によるゲイ・メディアへの広告制作
MSMを対象としたポータルサイトに検査相談室の取材記事を年に1回掲載しています。
・梅毒動画（性感染症ナビ）
「梅毒急増中！～梅毒は早期治療が大切です。」制作
・東京都発行「たんぽぽ」制作

研究班

・ MPOX GUIDE BOOK（e-book 含む）制作
（厚生労働科学指定研究事業「バイオテロ対策のための備蓄されている細胞培養痘そうワクチンの備蓄等，バイオテロ病原体への検査対応，公衆衛生との関連のあり方に関する研究」研究分担者：岩橋恒太（NPO 法人 akta））
・ check72 ～郵送 HIV 検査配布のための web の企画・制作・運営
ウェブcheck 72の運営と検査プロモーション全般の運営を受託しました。
厚生労働科学研究班「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」（研究代表者：今村顕史／東京都立駒込病院）からの委託を受け、MSMを対象に郵送HIV検査キットの啓発を行ないました。コミュニティセンターが不在の地域、北陸（富山・石川・福井）、九州（大分・宮崎・鹿児島）在住の方を対象に、出会い系アプリ、twitterや掲示板、フライヤーなどによる広報を、地元のゲイバーやLGBT団体等に協力していただきました。キットの受け取りは、直接自宅だけではなく、郵便局留め、店舗での受け取りができるようにしました。また、検査サイトを通じて検査申込み前と検査後にアンケート調査を行いました。
結果は、申込期間40日余りで、北陸の申込数172件、返送数130件、陽性判定2件(1.54%)、南九州の申込数143件、返送数107件、陽性判定1件(0.94%)でした。HIV検査の前後の不安や心配にLINE等による相談を提供し、要確認検査となった場合は、確認検査や相談が受けられるようにし、地域のエイズ治療拠点病院と連携しながら、相談支援体制を構築し、受療の支援を行ないました。

●他団体との協働プロジェクト

・TOKYO AIDS WEEKS 2022 HUB（下記参照）
・HIV/AIDS 啓発活動コンソーシアム「HIV/AIDS GAP6」
・Not Alone Cafe 東京
・LGBT 支援ハウス
・プライドハウス東京レガシー ウェルネス・サポートチーム
・Living Together 計画
HIVのリアリティを伝えるプロジェクトを、aktaとぷれいす東京が窓口になって行っています。
・感染症コミュニケーション円卓会議
コミュニティの代表、医療・研究機関、行政が、感染症についての情報発信などについて検討、実施する任意の団体

TOKYO AIDS WEEKS 2022(11月15日～12月15日)を開催し、オンライン・会場開催あわせて、のべ37のイベント・団体の参加がありました。ぷれいす東京の主催・共催イベントは、以下の通りでした。

＜ライブ配信＞

・ 11月16日（水）/「12月2日（金）/12月17日（土）「TOKYO AIDS WEEKS を語ろう 第1夜~第3夜」
・ 2月3日（土）「世界エイズデーをきっかけに ～コミュニティセンター＆居場所をつなぐ」
（そらにじひめじ、ぷれいす東京共催）
・ 12月11日（日）「ふたりぱぱ・みっつんと話そう！ ～『RESPECT』とスウェーデンの性教育の今～」
（プライドハウス東京レガシー、ぷれいす東京共催）
・ 12月23日（金）「[BEING AND BELONGING] について話そう！」
（ノーマルスクリーン、ぷれいす東京共催）

＜オンライン＞

・ 11月27日（日）「アディクション・ぽーと」
毎月開催のLGBTQ＋でアディクトのオンラインの居場所。AIDSデーをテーマにトーク
（主催　ぷれいす東京／Stay Healthy and be HAPPY！）
・ 12月13日（火）「PrEP 利用者・支援のためのオンラインセミナー1（医療機関、行政向け）」
（HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究班（研究代表者：水島大輔）、ぷれいす東京企画・運営）

・12月16日(金)「PrEP利用者・支援のためのオンラインセミナー2(ゲイメディア、支援者向け)」
(HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究班(研究代表者:水島大輔)、ぷれいす東京企画・運営)

<会場開催&オンライン>
・11月15日(火)~12月15日(木) 世界エイズデー展「トランスジェンダー とセクシュアルヘルス(性の健康)」
(プライドハウス東京ウェルネス・サポートチーム主催、NPO法人akta、ぷれいす東京共催)

現在もYouTubeでアーカイブ動画をご覧いただけるものが多数あります。各イベントの詳細については、TOKYO AIDS WEEKS 2022開催リポート(https://aidsweeks.tokyo/news/806)をご覧ください。

TOKYO AIDS WEEKS 2022開催にあたり、ヴィーブヘルスケア株式会社に協賛をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

YouTube「ぷれいす東京チャンネル」の登録をお願いします。

●ロビー活動
・要望書の提出
「レインボー国勢調査プロジェクト共同発起団体」の一員として、総務省に「令和7年国勢調査に向けて同居同性カップル数集計公表の検討に関する要望書」を提出。(2022年11月25日)
・LGBTQ+緊急国会で代表の生島が発言(2023年2月14日)

●外部委員会への参加
生島や池上らが、国や自治体などをはじめとする外部機関にHIV/エイズ関係の委員として参加しています。

東京都内の医療機関などでは、行政や民間団体などと垣根を越えて連携し、HIVにどう向きあっていくのかを協議する場が設けられています。ぷれいす東京は、会議の場への参加のみにとどまらず、会議をきっかけとして保健所や医療機関からくる問い合わせや相談に対して積極的に協力しています。

- 厚生労働省エイズ動向委員会 委員
- 東京都エイズ専門家会議 委員
- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者雇用サポーター
- 公益財団法人友愛福祉財団 理事
- 新宿区HIV/AIDS関係機関ネットワーク連絡会 委員
- 特定非営利活動法人エイズ&ソサエティ研究会議 副代表
- 葛飾区エイズ連絡会議 委員

●新規ボランティア研修会の実施
牧原 信也

9月恒例の、新規ボランティア募集の説明会とボランティア向け研修を今年も行いました。昨年に引き続き、COVID-19の流行を鑑み、すべてリモートでの開催としました。

9月10日(土)の説明会には20名が参加、別日程も含めて合計で24名の参加がありました。実際の研修には、15名の参加があり、9月23日(祝・金)と9月25日(日)の両日に朝から夕方まで研修に参加していただきました。リモートになって3年目でしたが、今年も参加者に協力していただきながら、なんとか無事に開催することができました。ありがとうございました。これから、ぷれいす東京の色々な部門で、細く長く関わっていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

▼新規ボランティア説明会
9月10日(土) 10:00~12:00+個別説明
ZOOMによるオンライン
参加者合計24名(個別も含む)

▼新規ボランティア研修会
9月23日(祝・金)・25日(日) 10:00~17:00
ZOOMによるオンライン
参加者合計16名(インターン含む)

講義は、1日4~5コマを2日間開催。
1コマは50分~90分、休憩10分。プログラムの内容は以下のとおり。

・9月23日(祝・金)

1. 社会的な背景　池上 千寿子
2. 医学的基礎知識① HIVの基礎知識と検査法　福原 寿弥
3. 手記を読むワークショップ　生島 嗣・スタッフ
4. ネスト・プログラムの取り組み　加藤 力也
5. 制度や社会サービス　牧原 信也

・9月25日(日)

1. 医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識　福原 寿弥
2. セクシュアリティの多様性について　大槻 知子
3. セイファーセックス・リスクアセスメント　生島 嗣・スタッフ
4. 相手のある保健行動　生島 嗣・スタッフ

●インターン生受け入れ

2021年度に続き、NPO法人ドットジェイピーを通じて大学生1名のインターンを受け入れました。

●動画制作

東京都からの委託で梅毒予防啓発動画を制作しました。
梅毒動画(性感染症ナビ)
「梅毒急増中！～梅毒は早期治療が大切です。」
出演：Yさん、Kさん
監修：パーソナルヘルスクリニック塩尻大輔医師
カメラ・編集　松岡弘明、タイトルデザイン：村上ひろし
ナレーション：福正大輔、構成：生島嗣

●Webサイト/SNSの運営

ぷれいす東京本体のほか、研究班関係、委託、コラボレーションで様々なサイトを運営しています。2023年3月に、mpox(サル痘)の情報提供ページを新設しました。

YouTube「ぷれいす東京チャンネル」では10以上の動画を公開しました。ソーシャル・メディアも活用して、随時情報発信をしています。

ぷれいす東京関係

・ぷれいす東京オフィシャルサイト
https://www.ptokyo.org/
・私たちは、ぷれいす東京です。
https://ptokyo.org/weare/
・“P-LATINO” Comece tirando dúvidas
- つながることから始めよう！
https://p-latino.ptokyo.org/
・Living with HIV
～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～
https://lwh.ptokyo.org/

研究班関係

・地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト
https://www.chiiki-shien.jp/
・Stay Healthy and be HAPPY！
https://stayhealthy.tokyo/
・PrEP in JAPAN　https://prep.ptokyo.org/
・BRTA JAPAN　https://brta.jp/
・Love Life and Sexual Health(LASH)
https://lash.online/

受託

・東京都HIV検査情報Web　http://tokyo-kensa.jp/
・check72　https://check72.jp/
・性行為で感染する病気への対策してますか？
https://shp.ptokyo.org/hepatitis/

コラボレーション

・TOKYO AIDS WEEKS　https://aidsweeks.tokyo/
・とも・ナビweb　～HIVで通院されている皆さまへ～
https://www.janpplus.jp/tomonavi/
(特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスとの共同プロジェクト)

Facebookは以下のページがあります。

ptokyoGF
LoveLifeAndSexHealth
UU_Japan-169773930400714 (U=U_JAPAN)
updateHIV
TokyoAIDSweeks

そのほか、
Twitter (@placetokyo　ほか)
Instagram (@placetokyo)
YouTube「ぷれいす東京チャンネル」などがあります。

●冊子などの制作物

８月にぷれいす東京のパンフレット（A4 版）を改訂しました。３月にはネスト・プログラムの案内パンフレットを新たに作成し、委託を受けて HIV 陽性者 /PrEP 利用者向けの MPOX（サル痘）の冊子を制作しました（P.3 参照）。また、東京都発行の陽性告知直後の人のための冊子「たんぽぽ」の改訂に協力しました。

ネスト・プログラムの案内パンフレット表紙

▼MPOX（サル痘）の予防啓発のためのパンフレット

・『MPOX GUIDE BOOK』（web に e-book あり）

編集：生島嗣　デザイン：村上ひろし　イラスト：shogo　協力：感染症コミュニケーション円卓会議の皆様、仲村秀太（琉球大学病院）、村松崇（東京医科大学病院）

厚生労働科学指定研究事業「バイオテロ対策のための備蓄されている細胞培養痘そうワクチンの備蓄等，バイオテロ病原体への検査対応，公衆衛生との関連のあり方に関する研究」研究分担者：岩橋恒太（NPO 法人 akta）からの委託で制作。

●メディアへの協力

今年度もテレビ･ラジオ番組、新聞や雑誌、Web など各種メディア（含むゲイ･メディア）からの取材などに協力･寄稿し、情報発信をサポートしました。また、研究成果や相談対応に基づく情報提供、可能な範囲での HIV 陽性者の紹介を行いました。事前に企画書を提出していただき、内容の妥当性や取材協力者のプライバシーへの配慮などを確認しています。

中日新聞	HIV の偏見なくそう　金沢で当事者ら語るイベント	9 月 18 日発行
石川テレビ	性的マイノリティ・LGBTQ への理解を…金沢で『プライドパレード』前回を上回る 480 人が参加	9 月 18 日放送
石川テレビ	今や薬でエイズ発症防げる時代…“ゲイ”と“HIV 陽性”公表の男性 未だ続く偏見や差別への想い	9 月 20 日放送
石川テレビ	HIV 陽性者が思う“HIV 情報”の更新を…差別と偏見を無くすため【石川発】	10 月 17 日放送
カトリック新聞	HIV/AIDS デスク勉強会　歴史と最新の動き 学ぶ -- 当事者支援する生島さん講師に	10 月 16 日発行
ここに	「「世界エイズデー」にあわせて「TOKYO AIDS WEEKS 2022」が開催。 上映会、トーク、セミナーなど 36 のイベントを実施	12 月 2 日掲載
g-lad xx	レポート：TOKYO AIDS WEEKS 2022	12 月 7 日掲載
g-lad xx	PrEP ユーザーのリアリティ --2022 年の現在地	12 月 17 日掲載
Medical Tribune	HIV 曝露前予防、エイズ学会が「手引き」策定	1 月 6 日掲載
都政新報	感染症と社会 -- コロナが教えてくれたこと　認定 NPO 法人ぷれいす東京理事　池上千寿子	1 月 6 日発行
TOP-HAT News 第 173 号	場所の制約を超えて　『ぷれいす東京 News』から」	2 月 1 日掲載
医学のあゆみ 284 巻 9 号	特集：HIV の発見から 40 年 ― 医学はどう戦ったか，これからどう戦うのか「HIV/AIDS の予防とケアに係る NGO のあり方」	3 月 4 日発行

部門報告（ホットライン）

1. 活動のあらまし

HIV/エイズに関して、不安や疑問がある人の相談を受けとり、情報を提供する場として、

＊「ぷれいす東京 HIV/エイズ電話相談」

＊「東京都 HIV/エイズ電話相談（平日 / 夜間 / 休日）」（東京都委託事業）

を運営している。

2. スタッフの構成（2023年3月現在）

・コーディネーター　0名
・世話人　5名
・スタッフ　32名（実働）

3. 活動内容

○「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

電話番号：03（3361）8909［1 回線］
実施日：日曜日　14：00 ～ 17：00
今年度も新型コロナウイルス感染症により、1 年を通して休止した。

○「東京都HIV/エイズ電話相談（平日/夜間/休日）」（東京都委託事業）

電話番号：03（3227）3335［2 回線］
実施日：月～金曜日　12：00 ～ 21：00
（但し、祝日の場合は、14：00 ～ 17：00）
土 / 日曜日　14：00 ～ 17：00

○スタッフミーティング

毎月 1 回、第 3 日曜日 10：00 ～ 11：30 に開催。
合わせて、ケースカンファレンスや学習会を行っている。

○世話人会

部門内の調整・企画の場として有志により構成。ホットライン部門研修に携わっている。
第 3 日曜日　に必要に応じてミーティングを開催。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会

東京都エイズ対策係との 2 者による定例会議。
毎月第 2 金曜日に都庁にて開催している。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会全体会

東京都エイズ対策係とぷれいす東京に係るスタッフで構成され、2012年度から始まった。年1回開催。

4. 2022年度の相談状況

1)「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

●相談実績報告(2022年4月1日～ 2023年3月31日)

新型コロナウイルスの緊急事態宣言などを受けて、2020年4月12日から相談の休止を継続している。

年間活動日数	0 日間
総相談時間数	0 時間
活動スタッフ数	のべ 0 名
年間相談数	0 件
	男性 0 件 女性 0 件 不明 0 件
	うち 陽性者 0 件
	確認検査待ち 0 件
	陽性者周囲 0 件
	確認検査待ち周囲 0 件

●相談件数〈ぷれいす東京〉

今年度も相談件数は、0 件（昨年度：0 件）だった。月平均 /0 件（同：0 件）、1 日平均 /0 件（同：0 件）でした。過去の推移は、515 件、468 件、7 件、0 件、0 件だった。

そのため毎年の報告項目の報告とグラフは 2022 年度もありません。

2)「東京都HIV/エイズ電話相談(平日／夜間／休日)」(東京都委託事業)

この相談は東京都から委託を受け、2020 年 1 月から「ぷれいす東京」が単独で行っている事業である。

●相談実績報告(2022年4月1日～ 2023年3月31日)

年間活動日数	359 日間
総相談時間数	2,535 時間／のべ 5,070 時間
活動スタッフ数	のべ 1,693 名
年間相談数	6,391 件
	男性 5,210 件　女性 1,172 件
	不明 9 件
	うち 陽性者 146 件
	確認検査待ち 47 件
	陽性者周囲 54 件
	確認検査待ち周囲 4 件

●月別相談件数〈東京都〉

今年度の相談件数は 6,391 件（昨年度：5,477 件）で 914 件の増加だった。

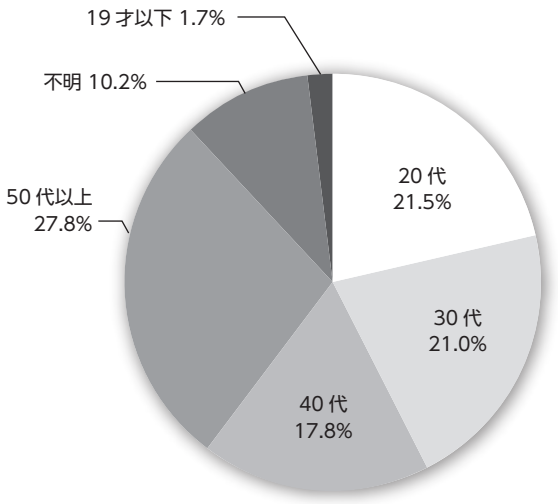
●相談者の内訳〈東京都〉〔グラフ1〕

性別は、「男性」81.5％（昨年度：81.6％）、「女性」18.3%（同：18.3%）、「不明」0.1%（同：0.1%）だった。

今年度の割合は昨年度と変わりなしだった。

年代は、「50 代以上」27.8％（同：20.4％）、「20 代」が21.5%(同:22.6%)、「30代」21.0%(同:22.8%)、「40代」17.8%（同:19.8%)、「不明」は 10.2%（同:12.2%)、「19 才以下」1.7%（同：2.2%）の順だった。「50 代以上」が一番になったが、他は大きな変動はなかった。これは特定のリピーターが「50 代以上」が多かったためだと思う。

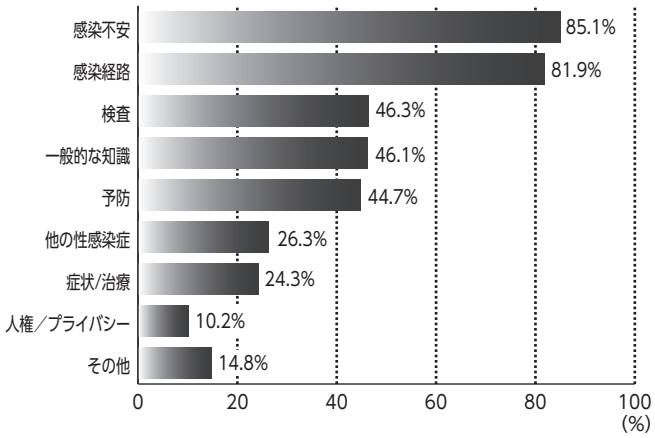
グラフ 1　相談者の年代 (東京都) n=6,391
2022年4月～2023年3月



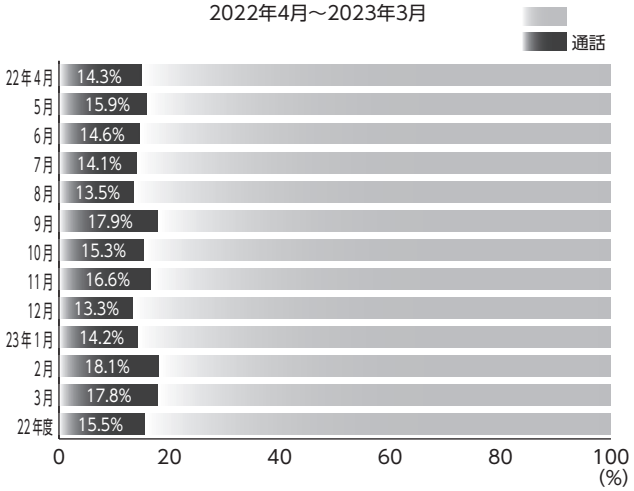
●相談内容 (複数回答有)〈東京都〉〔グラフ2〕

今年度の相談内容の内訳は、「感染不安」が 85.1％（昨年度：81.3%）で一番多かった。続いて「感染経路」が 81.9％（同：78.6％)、「検査」が 46.3％（同：52.7％）と続いた。「一般的な知識」46.1％（同：43.5％)、「予防」44.7%（同：46.9%)、「他の性感染症」26.3%（同：26.9%)、「症状 / 治療」24.3%（同：27.5%)、「その他」14.8%（同:21.0%)、「人権 / プライバシー」10.2%（同:12.7%）という順位になった。

グラフ２　相談内容（東京都）＊複数回答あり
2022 年 4 月～2023 年 3 月



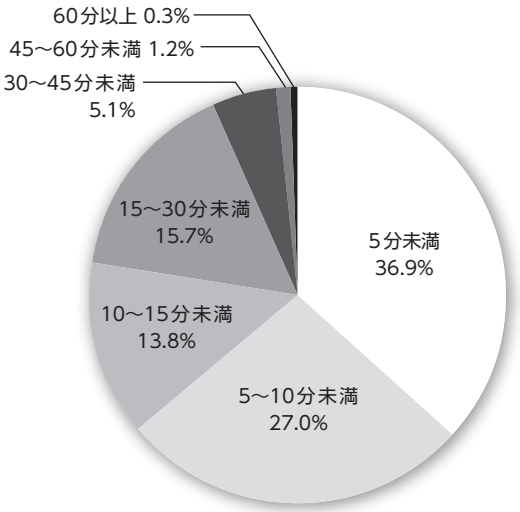
グラフ４　回線占有率（東京都）
2022年4月～2023年3月



●相談時間〈東京都〉〔グラフ３〕

10 分未満の相談は 63.9%（昨年度：69.9%）と半数以上を占めた。全体の 93.4%（同：96.1%）が 30 分以内に収まり、60 分以上の相談は 0.3%（同：0.2%）だった。昨年度とさほど変化はなかった。

グラフ３　相談時間（東京都）n=6,391
2022年4月～2023年3月



●回線占有率〈東京都〉〔グラフ４〕算出方法：総通話時間／総相談時間（超過は分母に加算）

今年度も回線占有率は全て 20%未満だった。

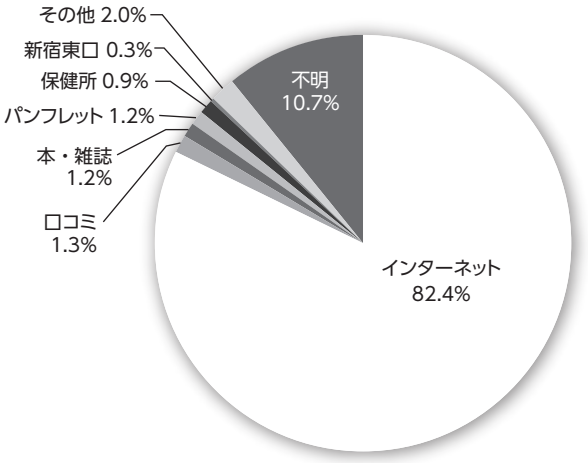
これは長期的なリピーターの相談が多くなり、どうしても相談時間が短くなってしまうからだろう。

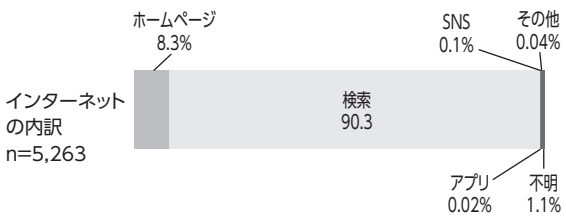
●情報源〈東京都〉〔グラフ５〕

「インターネット」は全体の 82.4%（昨年度:81.8%）だった。続いて「不明」10.7%、「その他」2.0%、「口コミ」1.3%、「パンフ」1.2%、「本雑誌」1.2%、「保健所」0.9%で、それ以外は 0.5%未満だった。

「インターネット」の 5,263 件の内訳は、「ホームページ」441 件（8.3%）、「検索」4,756 件（90.3%）、「不明」56 件（1.1%）、「その他」2 件（0.04%）、「SNS」7 件（0.1%）、「アプリ」1 件（0.02%）だった。

グラフ５　情報源（東京都）n=6,391
2022 年 4 月～2023 年 3 月





4. 2022年度の相談状況

2)「東京都HIV/エイズ電話相談(平日／夜間／休日)」(東京都委託事業)

●他県割合〈東京都〉

東京都外からの相談は3,966件(昨年度：2,959件)で、全体の62.1%(同：54.0%)を占めた。昨年度より8%の増加だった。地方からの相談が増えたのは、こういう相談が地方にないからもそうだが、長期的なリピーターの発信地が地方が多かったのも原因だと思われます。

●陽性者及びその周囲への対応〈東京都〉

HIV陽性者からの相談は146件(昨年度：176件)で、30件減少した。確認検査待ちは47件(同：24件)、陽性者周囲の相談は54件(同：53件)、確認検査待ち周囲の相談は4件(同：8件)だった。東京都の相談における陽性者等の相談率は、3.9%(同：4.8%)だった。陽性者の相談が減少したが、数人いたリピーターが来なくなったからだろう。

3) 相談全体のまとめ(東京都)

①東京都HIV/エイズ電話相談の平日のシフトが始まる

東京都の5年間の数字は、2,679件、3,472件、5,692件、5,477件、6,391件と、2020年1月20日から始めた毎日体制のシフトの中で一番の件数となった。コロナ感染症が収まりつつあり、HIVに関心が戻ってきたのだろうか。

更に梅毒が増えているということで梅毒を含む他の性感染症の相談は、割合はさほど変わらないように見えるが、件数では去年よりも209件増えている。ニュースでその報道があると翌日にはその相談が増えたように思います。

相談員数は、昨年度が1,703名だったが、今年度は1,693名となった。シフト運営のための相談員のやりくりは今まで以上に大変である。一人当たりのシフトへの参加回数が増加したり、6時間以上の長時間にわたり相談を受けることになるので、相談員の心のケアに力を入れる必要が出てきている。

更に一昨年からのコロナ感染症による密を避けるため2名体制でのシフトを行ってきて、一人当たりの参加回数がさらに増加したり、心の負担も増してきていると思います。

②リピーターの相談

今年度のリピーターの件数は3,711件（58.07%）で、昨年度は3,268件（59.66%）だったので件数は増えたが、割合は少しだが減った。いずれにしろ相談の過半数を占めている。

今年度もリピーターが存在したが、特徴は大きく二分される。一つ目はもう何年も、人によっては10年単位でかけてきている長期的リピーターで、その多くは日常接触や接触すらしていないことで不安になり、細かく何度も確認をしてくる。もう一つは、一定の期間だけかけてくるリピーターで、多くは性的接触などの具体的な心配事があり、検査結果を受け取るまで続く。しかし中には、陰性の結果が信じられず、相談が続く場合もあった。

③新型コロナウイルスの影響

2022年度も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。シフトに入るスタッフが来れるのかとか、コロナに感染したり、濃厚接触者になりシフトを休まざるをえなくなり、新たにシフトに入れるスタッフを探さなくてはいけなかったり、と頭を悩まされました。

まだ収束までには時間がかかりそうなので、今後の動向に注意する必要があるだろう。

④陽性者などの相談

東京都のHIV/エイズ電話相談に寄せられた、HIV陽性者・確認検査待ちとその周囲の人たちからの相談をまとめた。

□陽性者(146件)

1)陽性者のリピーター(89件／陽性者の61.0%)

※男性：89件／30代：2件、40代：75件、60代：12件／東京：2件、他県87件

・年間の相談回数が、昨年度100回以上かけてきたリピーターがかなり減ったためで、昨年度より30件の減少だった。
・トピック的な相談がある場合もあるが、多くは日常に起きた出来事に関する相談だった。
・HIV以外の課題を抱えている相談者もおり、対応は慎重にしなければならない。

2)感染後6ヶ月以内の陽性者(12件／陽性者の8.2%)

※男性：12件、女性：0件／20代：4件、30代：1件、40代：4件、不明：3件／
東京：4件、他県：4件、海外：1件、不明：3

全て告知直後の漠然とした不安の他に、
・治療費、服薬などについての心配。(5件)
・家族・パートナーに告知しないといけないか、家族・パートナーにうつさないか。(4件)
・保険についての心配。
・顔や首の手術をするが病院の先生の対応が気になるので、そこで手術して大丈夫か不安。
・他の人は陽性になった事をどのようにしていったのか知りたい。

3)感染後6ヶ月以上と長期療養中の陽性者(45件／陽性者の30.8%)
※男性:44件、女性:1件／20代:1件、30代:9件、40代:10件、50代以上:8件、不明:17件／東京:22件、他県:13件、海外:1件、不明:9件

[緊急や困難な事例]
・自分は陽性である事を言わずに、その人と何度か関係を持った。自分は検出限界値以下のウイルス量なので、いつも言われなければコンドームをしないが、もし相手の検査結果が陽性であった場合責任を問われるのか。(他1件)
・どこに相談したらいいか分からずここにTELしました。ずっと治療していて体調は大丈夫。ただメンタルの状態がよくなくて、本当はどこか心療内科で治療した方がよいと感じている。しかしメンタルクリニックを受診すると、自分の個人情報をいろいろと話さないといけないし、また薬を処方された場合、HIVの薬との飲み合わせの問題も出てくると思うし、どこの心療内科を受診したらよいか分からない。
・去年陽性と分かり治療して、今はU＝Uの状態。最近骨折をして手術が必要になった。近所の整形外科は「設備がないから受け入れられない」ということで大きな病院を紹介された。その病院でHIVの事や服薬している薬などを申告したら「うちでは手術できない」と断られた。さらに別の大きな病院にも行ってみたが、そこでも「手術できない」と断られた。2件続けて断られてすごく悔しい。歯医者の受け入れ問題については聞いていたが、大きな病院でも手術を拒否されるとは思わなくてショック。それでここにはもう二度とTELすることはないと思っていたが、誰かに話しを聞いて欲しくて今日TELしました。
・近所のクリニックで人間ドックで胃腸の検査をして、サイトメガロウイルスとアメーバ赤痢が見つかった。大腸の検査をする事になり、前日に感染症の有無を調べる血液検査もすることになった。クリニックには陽性者と告げていない。血液検査で陽性がばれた時にそのクリニックでの診察を拒否されたらと考えると不安でたまらない。拠点病院の主治医に相談したら「大腸の2次検査はうちでやってあげるよ」と言ってくれた。でもそのクリニックが便利で心地いいので、今後もずっとそのクリニックで受けたい。どうしたらいいですか。ポジティブラインは何回も利用している。

[専門的知識が必要な事例]
・歯科を紹介して欲しい。
・注射薬について他、薬に関する事。(他3件)
・今度マイナンバーカードに健康保険証が一本化されることになったが、個人情報の取り扱い(既往歴などが漏れたりしないか)がどうなのか大変不安。そういった相談ってそちらに来てますか。(他　1件)
・近々海外勤務になりそう。現地での医療費や薬代がいくらかかるか教えて欲しい。(他　3件)
・転職・就労の相談。(他　5件)
・社会保険についての質問。(他　3件)
・妊活について。

[その他]
・コロナウイルスやワクチンについて。
・飼っているペットを友人に渡したら、具合が悪くなったと言われた。ペットが感染して、そのペットから感染することはあるのか？
・主治医に対してのクレーム・転院について。(他　5件)
・何かあった時のためにいろいろと情報を得たい。
・ぷれいす東京でボランティアをしたい。

□確認検査待ちの相談(47件)
※男性:29件、女性:18件／20代:20件、30代:17件、40代:8件、50代以上:0件、不明:2件
東京…18件、他県…28件、不明…1件

[術前検査]
・術前検査で陽性になった。今、確認検査の結果待ち。(他7件)。
・肝臓の病気で大学病院に通っている。治験を受けるためのHIV検査で陽性だった。確認検査はこれから結果が出る。(他　1件)

[自主検査]
・予防のない性行為をしたので検査をしたら確認検査待ちとなった。(他　16件)
・予防のない性行為をして症状が出たので検査をしたら確認検査待ちとなった。(他　6件)
・毎年定期的にHIV検査を受けている。先日抗原抗体検査で陽性と出てしまって、どうしたらいいでしょうか？毎年定期的に検査しているので、特に不安な行為があったわけではないです。

・2月に検査して陰性。その後男性とコンドームなしの挿入があって、6月に保健所と病院で検査。保健所の結果は判定保留で1週間後に結果が分かる。先生は保健所の検査の方が詳しい検査なので結果を待つように言われた。もし感染してたら、この男性としか考えられない。(同じ人からあと3件)
・先週土曜日に即日検査をしたら陽性となってしまい、来週月曜日に確認検査の結果が出る。可能性のある行為は1年以上前。その後40日以上と67日目の2回即日検査を受けて陰性だった。それ以降は可能性のある行為は一度もしていない。前の2回の検査の結果は信頼できないのでしょうか?(同じ人からあと4件)

[郵送検査]
・郵送検査で要確認検査の結果だった。体調悪い。発熱、リンパの腫れ、帯状疱疹あり。ゲイでコンドームなしのアナルセックスなど心当たりあり。この後の流れを教えて下さい。もし陽性だったら入院する必要がありますか。(他　3件)

[その他]
・妊婦検診などで分かった。(他　3件)

□陽性者周囲の相談(54件)
※男性:37件、女性:17件/10代:0件、20代:13件、30代:20件、40代:6件、50代以上:6件、不明:9件
東京:30件、他県:17件、不明:7件

・(パートナー)以前から付き合っていた人から7/2に陽性と言われた。その人と6/10にコンドームなしの挿入をした。6週間後に東口検査相談室で検査陰性。少しは安心しても良いでしょうか。(パートナーから似たような相談他に8件)
・(元パートナー)以前お付き合いしてた人が陽性。3年位前に別れた。別れてから検査して陰性。区切りがつかない。その人が触ったリモコンなどに今でも感染力のあるウイルスが付いていて、そこを触った手で目をこすったり、お尻に触れると感染するのではと心配になる。常に除菌ティッシュでふぃていて、娘や母に迷惑を掛けていて心苦しい。これからはその人の触った所が気になったら、ただの汚れだと思うようにします。区切りを付けて気を楽に持ちます。(元パートナーから似たような相談他に5件)
・(セックス相手)20代の時に感染した人と、薬も飲んでいるので大丈夫と言っていたので、コンドームなしのアナルセックスを10/13にした。11/15に関節痛と喉が痛くなった。これは初期症状ですか?幼なじみに話したら叱られた。もし感染したら医者に相談します。誰かに話したくて電話しました。(セックス相手から似たような相談他に6件)
・(会社の同僚)当社の従業員で外国人を雇用している。その人が陽性で、母国では服薬治療をしていた。日本で働く場合は治療はどうなるのか。日本で障害者手帳はどうやって取得出来るのか。こちらは東京23区なので日本の病院でこちらから通い易い所はあるか。(会社関係から似たような相談他に3件)
・(身内)息子が今カリニ肺炎で入院している。なかなか良くならない。専門の病院にも転院出来ない。今まで抜歯してもなかなか良くならなかった。自分は看護師なのになぜ気が付かなかったのか悔やまれる。これから様々な手続きをするが、周りに知られるのではと気になる。医療費も心配。(身内から似たような相談他に3件)
・(友人)ゲイの友人が何人かいる。外食したり、お酒を飲んだりする。先日1人の友人に陽性と告げられた。自分は口内炎があるが、一緒にお酒を飲んで感染しないか。2年も友人として付き合っていて、たくさんの人とSEXしている話しも聞いていた。それで今まで病気の事を隠していたのがショックで、大げさにリアクションしてしまい、「知らずに一緒に食事したり、お酒を飲んでいて、私も感染していたらどうするの!?」と言ってしまった。薬を飲んでいていつ頃エイズになるのか?どの位生きられるのか?(友人や知人から似たような相談他に10件)
・(医療関係者)(都内にある)クリニックの者です。お世話になっております。陽性者の方数名の診察をしているのだが、患者さんに案内出来る様な歯科医のリストがそちらにあれば、教えて頂きたいと思いまして…。都内や都近郊(横浜など)の歯科医のリストが欲しい。(医療関係者から似たような相談他に2件)

[その他]
・(学校運営者)学校を運営して留学生を受け入れている。日本語学校に通いたいと言う外国人がいるが、本人はHIV陽性と言っている。都庁に相談した所HIV陽性を理由に入学を断る事は出来ない。断ればそれは人権問題になると言われ、この電話相談を紹介された。
・(保険外交員)これから陽性者と会って書類を取り交わさなければならない。握手や印紙を貼る時のつば、相手が入れてくれたお茶などを触れたりしなくても大丈夫なのだろうか?自分は少し不安症である。

□確認検査待ち周囲の相談（4件）

※男性：3件、女性：1件／20代：1件、30代：1件、不明：2件
東京：2件、他県：1件、不明：1件

・（パートナー）彼女が予防会というクリニックで検査を受けて判定保留となった。クリニックでも確認検査を勧められたがまだ受けていない。彼女は風俗で働いていた。行為はコンドームを付けないフェラチオがあった。判定保留となって実際陽性となる人は何％位いるのか。今すぐ確認検査の結果を知りたい。（この直前に電波が悪くて切れている）

・（パートナー上記と同じ人）彼女が1か月前に偽陽性が出てしまった。それは迅速検査を受けたからだろうか？偽陽性から陽性になる確率は？また梅毒のように薬を飲んでいたら治るのか？彼女は風俗勤務だが、コンドームを使用しているがどうなのだろう。女性より男性の方が感染者が多いですよね。

・（パートナー）夫が必要がないのに定期的にHIV検査を受けている。今までは保健所で受けていたが、コロナの影響で千葉県内の保健所で受けれなくなったので、東京の病院に行って即日検査をしたら陽性になってしまい、すぐに確認検査を受けて1週間後に結果が出る。いつも陰性なのに陽性が出たので、「こんなのおかしい、間違っている」と言って、メンタルがおかしくなっている。どこか都内ですぐに検査出来る所を教えて欲しい。（確認検査待ちのパートナーの可能性あり。）

・（パートナー）僕は同性愛者で1年半の付き合いがあるパートナーがいる。彼が肺炎になり入院し、梅毒陽性でHIVの検査は結果待ちだが濃厚という。僕は3ヶ月以上彼とSEXしていない。彼からは「実は付き合う前に複数で性行為をしたり、ドラッグを使ったSEXにはまっていたり、騙されて無理やり性行為をされた事があった」と告白されていた。それで自分は付き合ってから3ヶ月くらいして、HIVなどの検査をして陰性だった。彼にも検査をお願いしていて、陰性だと思っていたが、「うつすかもと思い怖くて検査に行っていない」と聞かされた。彼をサポートしたいけど付き合うのもSEXするのも怖くて…。でも好きだからと思って混乱している。どうサポートしたらいいか分からない。

□陽性者相談などのまとめ

以前から、陽性者などの相談が難しいとの声が相談員から上がった時、ケースカンファレンスでの最終的な落とし所は、「不安な感情や気持ちを受け止めること」と「専門家が対応した方が良いこと」をわけて、「不安な感情や気持ちを受け止めること」に専念して、専門的なことはぷれいす東京ポジティブラインに繋ぐことで、相談員の心理的な負担を和らげようと考えた。ところが今年度の陽性者などの相談内容を見ると、専門家でも対応が難しいものが多く含まれていて、個別対応が必要な相談であった。特に地方では、プライバシーの問題があり、陽性者の暮らしにくさが見えてきた。

相談員は、気持ちを受け止めるよう努力をしているが、専門家のサポートや専門的な知識が必要な相談が多く、対応が難しかった。陽性者相談の相談員とも連携した学習会や、ケースカンファレンスを通じて、スキルアップする必要があると思うと同時に、どのような言葉をかけてぷれいす東京ポジティブラインにかけ直してもらうかも課題である。

5. 活動実績（2022年4月1日～2023年3月31日）

1) シフト等活動状況

ミーティング等稼働状況	回数	のべ人数	
電話相談シフト	359日		
スタッフミーティング	11回	107	4/17、5/15、6/19、8/21、9/18、10/16、11/13、12/18、1/15、2/19、3/19
世話人会	0回	0	
ホットライン運営会議	6回	28	5/9、7/11、9/12、11/14、1/16、3/27
東京都電話相談連絡会	11回	22	4/8、5/13、6/10、8/12、9/9、10/14、11/11、12/9、1/13、2/10、3/10
東京都電話相談全体会	1回	14	7/10
ホットライン部門研修	1回	5	10/9
モニタリング	2回	4	10/23、11/12
実地研修	4回	8	11/5、11/13、11/20、12/4

2) 新人スタッフ研修

他部門と共同の募集を実施。合同でのオリエンテーション・基礎学習を行なった後、ホットライン部門の専門研修を実施した。

(1)合同研修事前オリエンテーション
(2)ぷれいす東京スタッフ合同研修
(1)(2)の詳細については、事務・総務部門の報告を参照

5. 活動実績（2022年4月1日～2023年3月31日）

3) ホットライン部門研修

電話相談員に必要な基礎講義を学習後、各研修生とも相談電話事例を用いてロールプレイング、電話相談のモニタリング、実地研修の個別指導へ。全課程修了後、再度本人の意志を確認し、ホットラインスタッフに迎えた。研修の実施・指導はホットライン部門の世話人を中心に、現役スタッフが担当した。今年度研修全体を見直し、日数と時間を短縮した。

今年度はコロナ感染拡大により部門別研修を全てリモート研修にした。

ぷれいす東京合同研修
※事務・総務部門の報告を参照

- ●事前オリエンテーション
- ●合同研修（2 日間）or 補講

ホットライン部門別研修［1 日目］：6 時間

- ●グラウンドルールの確認
- ●ピア・カウンセリング
- ● HIV 検査について
- ●相談デモンストレーション
- ●リスクアセスメント

ホットライン部門別研修［2 日目］：6 時間

- ●グラウンドルールの確認
- ●検査相談デモンストレーション
- ●ロールプレイング（1）～（3）
- ●質疑応答／研修振り返り
- ●モニタリング／実地研修に向けて

モニタリング：各 3 時間× 1 回

- ●グラウンドルールの確認
- ●モニタリング
- ●ケース毎の振り返り
- ●実地研修に向けて疑問点の解消
- ●振り返り

実地研修：各 3 時間× 2 回

- ●グラウンドルールの確認
- ●実地研修
- ●ケース毎の振り返り
- ●知識の確認
- ●振り返り（毎回）／今後について（最終回）

〔講師〕生島 嗣（ピア・カウンセリング）・折茂 淳（HIV 検査について）
〔担当スタッフ〕阿曽 義文 / 丸井 淑美 / 山田 恒

6. スタッフの声

「ホットラインに入ってみて」

J.N

私は自分自身 HIV の当事者として、相談者の質問や不安に寄り添い、心理的な負担を軽減できればと思い、昨年ホットライン部門に入りました。

とっさに的確なアドバイスが出来なかったり、「自分ができることは何か？」という不安を感じたりすることがありますが、その分常に新しい知識やスキルを学び、成長できる場所だと感じています。

まだ半年ですが、非常にやりがいを感じています。少ない人員で運営しているにも関わらず、スタッフミーティングやメール、日報で円滑に情報共有されていると感じます。

一点新人スタッフとして、FAQ（よくある質問と模範解答）があると、電話でとっさの判断に戸惑わず対応ができ、またスタッフの回答も統一することができるのでは？と感じました。

ただ、コロナ禍での参加であったため、どうしてもスタッフ同士の交流がなく、100％のチームワークを経験することができず残念に思います。

まだ始まったばかりなので、今後は自分自身の知識を増やし、よりよい対応ができるのを目指すとともに、スタッフの交流会等があれば参加したり、積極的に他のチームの活動に参加したりできたらと思います。

「ぷれいす東京 HLに参加して。」

M

ぷれいす東京の HL に参加して、先ず研修ではその内容の濃さに驚きました。HIV の知識をはじめ、その相談を受けるという事についても複数の角度から学ぶプログラム。このホットラインが、ただ HIV についての情報を伝えるだけの物じゃない、という事を感じました。

そして実際に電話での応対を始めてみると、その感覚はリアルになりました。想像していた以上に、色々な方々から受けるお電話。HIV だけでなく、昨今流行している梅毒やサル痘など他の STI についてのご相談もあります。

そして、HIV や性感染症に対して知ってる事やイメージは人それぞれでした。

インターネットで簡単に情報を検索できる世の中だからこそ、それを敢えて生身の「人」から伝えてもらったり、確認したり、曖昧な事をクリアにしてもらうという事もこのホットラインに求められている役割なのかもしれないなぁ、と感じています。

まだまだ未熟ですが、それに適切に対応できる様、今後も実践を積んでいきたいと思います。

7. まとめ

平日が加わり毎日体制となって 2 年目に入り、同時にコロナウイルス感染症に対策しながらの相談も 2 年目になった。マスクをしての相談は最初は息苦しく、聞こえませんと何度か言われたものである。

1 年目はコロナウイルス感染症に絡んでだったり、単独での相談が多数寄せられていたが、2 年目はコロナウイルス感染症の関心が減ったのか、そういう相談も減ってきた。それが相談件数の減少に影響しているかは分からないが、参考までに前年度は 367 件、今年度は 281 件だった。

相談件数の減少を見るとコロナウイルス感染症の関心が減った反動で、HIV に関心が戻っては来てないという事か？

多岐にわたる広報活動をして HIV の関心を高めたり、こういう電話相談がありますよとは呼びかけてはいるが、電話離れにより、特に若い世代は電話相談はハードルが高いのだろうか？

いずれにしろ更なる相談件数の減少はホットラインの存続にも関わってくるので、広報活動の強化などを考えながら、でも相談にはもっと真摯に対応して行かなければと思います。

［データ作成・報告］阿曽 義文

SHプロジェクトのミーティング

・SH定期ミーティング

SHプロジェクトでは定期的なミーティングを行い、運営のアイデアをメンバーで出し合いました。多様な背景をもつスタッフが定期的に顔を合わせることで気持ちや意見をすり合わせることができました。どんどん話しやすくなる雰囲気があり、「げんきだった？」と近況を報告しあう場面もあり、交流の場ともなっています。

SH 定期ミーティング（オンライン）毎月第2木曜日

2022 年		
4 月		8 名
5 月		7 名
6 月		9 名
7 月	臨時ブース出展 MT	10 名
7 月	定期	8 名
8 月		6 名
9 月		6 名
10 月		6 名
11 月		7 名
12 月		5 名
2023 年		
1 月		5 名
2 月		7 名
3 月		8 名

・アディクション・ぽーと定期ミーティング

（オンライン）毎月第３火曜日⇒第４火曜日

開催日

2022 年
- 6 月 21 日
- 7 月 19 日
- 8 月 16 日
- 9 月 20 日
- 10 月 18 日
- 11 月 22 日
- 12 月 20 日

2023 年
- 1 月 24 日
- 2 月 21 日
- 3 月 21 日

内容

スタッフ３人～７人の打ち合わせ・役割分担などを行いました。ミーティングの中では、キーワードやポートの価値についても確認しました。

アディクション・ぽーと

(LGBTQ＋でアディクトとアディクトかもしれない人の居場所)

2022 年５月から定期的な居場所を開催してきました。最初はスタッフの進行を１人が担っていましたが、年度の途中から研修をして“デュアルファシリテート方式”を取り入れました。これは、ぷれいす東京 PGM のオリジナル手法で、当事者と支援者が二人一組となり、会を進行したり、フォローアップするやり方です。このやり方を取り入れ、当事者もスタッフもそれぞれファシリテーターの役割を分担することができ、進行の負担感が減りました。「みんなが居心地が良い場所を」目指していたので、スタッフにとっても良い方法だと感じています。

アディクション・ぽーと（オンライン）毎月最終日曜日

		参加者	スタッフ・ピアファシリテーター
2022 年			
5 月		7 名	5 名
6 月		7 名	3 名
7 月		3 名	5 名
8 月		2 名	3 名
9 月		4 名	3 名
10 月		7 名	5 名
11 月		4 名	5 名
12 月		6 名	5 名
2023 年			
1 月	3日臨時	6 名	6 名
1 月		5 名	5 名
2 月		5 名	5 名
3 月		3 名	5 名

・アディクション・ぽーと　運営のための研修

2022 年８月 11 日

講師：加藤力也さん　参加：８人

SH研修「アディクション・スタディ」第1弾

使用教材	講師（予定）	日時	開催方法
ASK 依存症予防教育プログラム	塚本堅一・生島嗣・福正大輔・大岡竜也（ASK 認定依存症予防教育アドバイザー）	2023 年 3 月 19 日（日）14:00-17:00	オンライン（Zoom）

参加者 12 名

参加者からは「貴重な体験談と具体的な回復の道筋をきくことができて良かった」と感想がありました。次回以降に、多様な存在として、さまざまなセクシュアリティをもつひとや多様な語りとして、いろんなアディクションの背景を持つ人がお話をすることを企画しています。それぞれぽーとの価値とも呼応する取り組みとなりそうです。第二回のアディクションスタディも楽しみにしていただきたいと思っています。

プライドハウス東京レガシー　ウェルネスサポートチーム

コンソーシアムとして SH プロジェクトのボランティアスタッフ 2 名と生島が参加

- 訪在日外国人のためのリソースづくり
- TOKYOAIDSWEEKSへの共同企画立案
- トランスデーのデコレーションボランティア
- 東京マラソンEXPOと誰でも応援エリアボランティア
- その他、定期的なミーティングで協力している

イベント企画・運営

LGBTQ+居場所の交流会～あなたの活動を報告してください！

日時：4月29日(祝)19時～21時
会場：オンライン
参加：13団体　70人　スタッフ7名

- 支援者支援が必要
- 団体としては話したりなかった
- お互いの活動を理解しあう話し合いができた
- セクマイ関係だけでなくいろんなマイノリティがいて勉強になった
- アルコールや薬物以外の依存症のあつまりがほしい

TOKYO AIDS WEEKS2022HUB

SHプロジェクトとプライドハウス東京レガシーウェルネスサポートチーム合同企画

ふたりぱぱ・みっつんと話そう！ ～『RESPECT』とスウェーデンの性教育の今～

日時：2022年12月11日(日)17:00-19:00
会場：オンライン
ゲスト：みっつん・生島嗣・浅沼智也・藤井ひろみ

SHプロジェクトとプライドハウス東京レガシーウェルネスサポートチーム合同展示

「世界エイズデーをきっかけに　～コミュニティセンター&居場所をつなぐ」

○日時：2022年12月3日(土) 20時～21時半　オンライン

- コミュニティセンター zel 宮城／仙台
- SHIPにじいろキャビン 神奈川／横浜
- バザールカフェ京都 京都
- 福岡コミュニティセンター HACO 福岡／博多
- コミュニティセンター akta 東京／新宿
- レッドリボンさっぽろ 北海道／札幌

● にじいろほっかいどう 北海道
● 金沢レインボープライド ・かなざわにじのま 金沢
● まちのほけんしつ／ハレルワ 群馬／前橋
● そらにじひめじ　兵庫／姫路
● ぷれいす東京・NOTALONECAFE・アディクション・
ぽーと動画配信

TOKYO AIDS WEEKS について語ろう
第1夜 11月16日　出演者：3人、コメント者：数人
第2夜 12月 2日　出演者：4人、コメント者：数人
第3夜 12月17日　出演者：4人、コメント者：数人

[BEING AND BELONGING] について話そう！
(TOKYOAIDSWEEKS2022イベント)
日時：2022年12月23日(金)19:30～
会場：オンライン
入場：無料
ゲスト：福正大輔　ブブ・ド・ラ・マドレーヌ
Hiraku Sho Akita　生島嗣

ぷれいす東京のお花見
2023年3月26日(日)午後1時～
リアル開催予定だったが雨天のため中止
SHプロジェクト・スタッフが 企画しました！

イベント & スタッフ派遣
●TOKYO RAINBOW PRIDE2022
4月21日　パレード前日準備　5人
4月22日　ブース：のべ12人
4月23日　ブース：のべ10人
4月24日　ブース：のべ23人
●7月9日(土)VITAプールパーティ　5名
15時～21時@ヒルトベイホテル
●9月3日(土)VITAプールパーティ　6名
15時～21時@ヒルトベイホテル

広告掲載
トランスマーチ広告掲載　…ユース相談とアディクション・
ぽーと
日時：2022年11月12日(土)10:00-17:00
会場：新宿区中央公園(水の広場)～新宿2丁目

1. 電話相談

●2022年度活動記録

(1)実施日

毎週土曜日　19時～21時

(2)年間相談活動日数

51日（2021年度：50日）

(3)電話相談活動時間数

102時間（2021年度：100時間）

(4)相談体制

相談員５名（兼務シフト担当１名）

(5)年間相談件数

114件（うち陽性者等の相談5件）

（2021年度：相談件数99件、うち陽性者等9件）

(6)ろう者ゲイ（聴覚障がい者）のメール相談

0件

●2022年度相談件数

(1) 全般

表1は月別の相談件数および1日あたりの平均件数を表している。

2022年度の年間相談件数は前年度と比べ15件増加した。今年度は中止した日にちはなかったので増加するのは分かっていたが、平均件数はたったの0.27件の増加のみで2020年度の中止した影響はまだ残っている感じです。

表１　月別の相談件数及び一日当たりの平均件数

		2022 年度			(参考) 2021 年度		
年	月	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）
2022 年	4 月	10	5	2.00	3	3	1.00
	5 月	10	4	2.50	11	5	2.20
	6 月	8	4	2.00	7	4	1.75
	7 月	11	5	2.20	6	5	1.20
	8 月	8	4	2.00	7	4	1.75
	9 月	7	4	1.75	13	4	3.25
	10 月	11	5	2.20	11	5	2.20
	11 月	14	4	3.50	11	4	2.75
	12 月	9	4	2.25	9	4	2.25
2023 年	1 月	8	4	2.00	7	4	1.75
	2 月	10	4	2.50	5	4	1.25
	3 月	8	4	2.00	9	4	2.25
	合計	114	51	2.24	99	50	1.97

(2) 相談時間

表2は相談時間を10分単位にまとめたものである。

2022年度も、10分以内で終わる相談が約5割だった。なお、1件あたりの平均相談時間は13.61分で、前年度の12.83分と件数が増加したのに時間はほぼ変わりなしだった。

表２　相談時間

相談時間（分）	2022 年度		2021 年度	
	件数	割合	件数	割合
～ 10	58	50.9%	62	62.6%
11 ～ 20	27	23.7%	15	15.2%
21 ～ 30	18	15.8%	10	10.1%
31 ～ 40	8	7.0%	6	6.1%
41 ～ 50	2	1.8%	4	4.0%
51 ～ 60	0	0.0%	0	0.0%
61 ～	1	0.9%	2	2.0%
合　計	114	100.0%	99	100.0%

(3) 相談者の年代

表3は相談者の年代別の相談件数を表している。

2022年度は30代が大幅に減少したが、40・50代が増加した。

これは特定のリピーターがこの年代だからだと思う。

表3　年代別の相談件数

年代	2022年度		2021年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
10代	3	2.6%	0	0.0%
20代	14	12.3%	14	14.1%
30代	11	9.6%	20	20.2%
40代	15	13.2%	10	10.1%
50代	15	13.2%	2	2.0%
60代以上	2	1.8%	0	0.0%
不明	54	47.4%	53	53.5%
合　計	114	100.0%	99	100.0%

(4) 相談電話の発信地域

表4は相談電話の発信地域を示している。

2022年度は東京からが少し増加し、関東以外からの相談が約5%も減少した。

それでも地方からの相談が多く、相談出来るツールがまだまだ少ないことが分かる。

なお発信地不明が年代と同じく50%以上になりました。

表4　相談電話の発信地域

地域	2022年度		2021年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
東京	13	11.4%	8	8.1%
東京以外の関東	21	18.4%	15	15.2%
関東以外	21	18.4%	23	23.2%
不明	59	51.8%	53	53.5%
合　計	114	100.0%	99	100.0%

(5) 相談電話の情報源

表5は相談電話を知った情報源を表している。

2022年度は「不明」が56.6%から62.3%と増加した。

表5　相談電話を知った情報源

情報源	2022年度		2021年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
ゲイ雑誌	0	0.0%	1	1.0%
検査機関・パンフレット	0	0.0%	1	1.0%
他の相談電話	0	0.0%	0	0.0%
インターネット	42	36.8%	39	39.4%
携帯電話・モバイル	0	0.0%	0	0.0%
口コミ	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	0.9%	2	2.0%
不明	71	62.3%	56	56.6%
合　計	114	100.0%	99	100.0%

(6) 相談者のセクシュアリティ

表6は相談者のセクシュアリティを表している。

「ゲイ」からの相談が7割近くと相変わらず過半数を占めているが、異性愛者の男女ともに増加しました。ゲイ向けと知っているがどうしても不安を聞いて欲しい、という相談が多かったです。

他にトランスの方からの相談があり、ゲイ向けからより広い範囲でのLGBTQ向けの相談に変えていく必要性を感じました。

表6　相談者のセクシュアリティ

区分	2022年度		2021年度	
	件数	割合	件数	割合
ゲイ	84	73.7%	76	76.8%
ゲイ周囲	0	0.0%	0	0.0%
既婚者・バイセクシュアル	2	1.8%	3	3.0%
男性に性的興味を持った	1	0.9%	0	0.0%
レズビアン	0	0.0%	0	0.0%
トランスセクシュアル等	1	0.9%	0	0.0%
異性愛者(男)	9	7.9%	4	4.0%
異性愛者(女)	5	4.4%	1	1.0%
不明	12	10.5%	15	15.2%
合　計	114	100.0%	99	100.0%

●相談内容について

2022年度は、114件の相談のうち陽性者対応5件(後述)と異性間性行為(男・女)14件と無言0件を除いた95件について検討し、HIV関連相談とHIV以外の相談に分類した。前年度と同様に1回の相談で複数の内容の相談が寄せられているケースも見受けられた。複数の相談を独立させて計上した結果、HIVに関連した相談が175ケース、HIV以外の相談(非HIV関連)が111ケース、合計286ケースとなった。

また、ろう者ゲイ(聴覚障がい者)のメール相談は0件であった。

(7) HIVに関連した相談…175ケース

図1はHIV感染不安や検査あるいはHIV以外の性感染症(STI)などに関する相談(以下:「HIV関連相談」)の内訳である。

2022年度の相談特徴を前年度と比較してみると、「予防なしアナルセックス感染不安」が5.3%→2.9%、「検査に関して」が20.5%→18.3%と減少し、「アナルセックスとフェラチオ両方の行為の感染不安」が3.8%→3.4%とほぼ変動なし、「予防なしフェラチオ感染不安」が6.1%→9.1%、「他のSTI」が4.5%→5.1%と増加した。

リスクのある行為をして相談してくるケースは、前年度同様にリスクが有る事を分かっていながら、行為を止められないといったケースが複数あり、前年度から継続して相談して来ているケースもあった。その様な相談には今後の予防について共に考えると同時に検査により現状を知る事をアドバイスしている。フェラチオに関する相談は、毎年のことであるが、する側・される側ともに予防をしている者は、相談票の記載からは読み取れなかった。アナルセックスでは適切な予防をしながらもフェラチオをする事による感染リスクを知らず行為の後に不安になり相談してきたケースが複数あった。

「その他の性行為の感染不安」では、相手の正常な皮膚を舐めた等、感染の可能性の無い行為で心配になり相談してきたケースが目立った。

「予防の情報提供」に関しては、今年度も、どの様にセーファーセックスをしたら良いか迷っている相談もありましたが、他にPep・Prepに関する相談も増えてきてネットや冊子などを見て対応しましたが、今後更に増えてくると思うのでしっかり勉強していかないと思いました。

(8) HIV以外の相談(非HIV関連相談)…111件

図2は、セクシュアリティ(性的指向)、ライフコース(ゲイとしての生き方)、そして人間関係などゲイとしてのアイデンティティに関わる「非HIV関連相談」の内訳である。

図2　非HIV関連相談の内訳 (n=111)

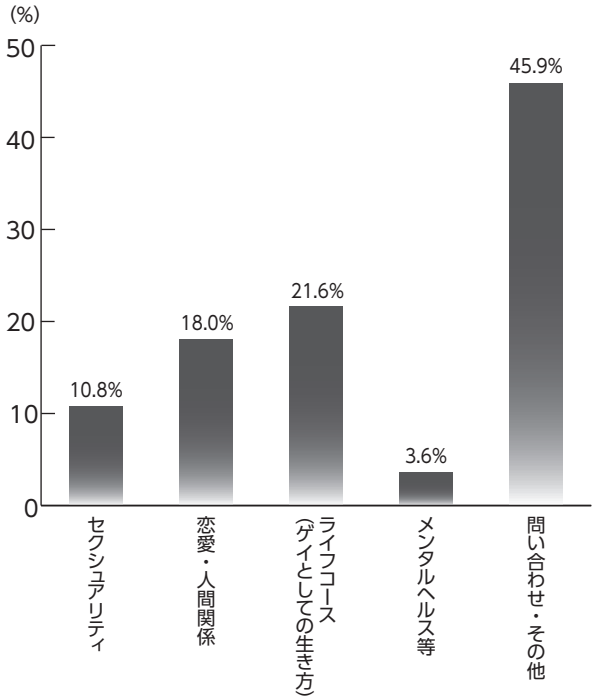
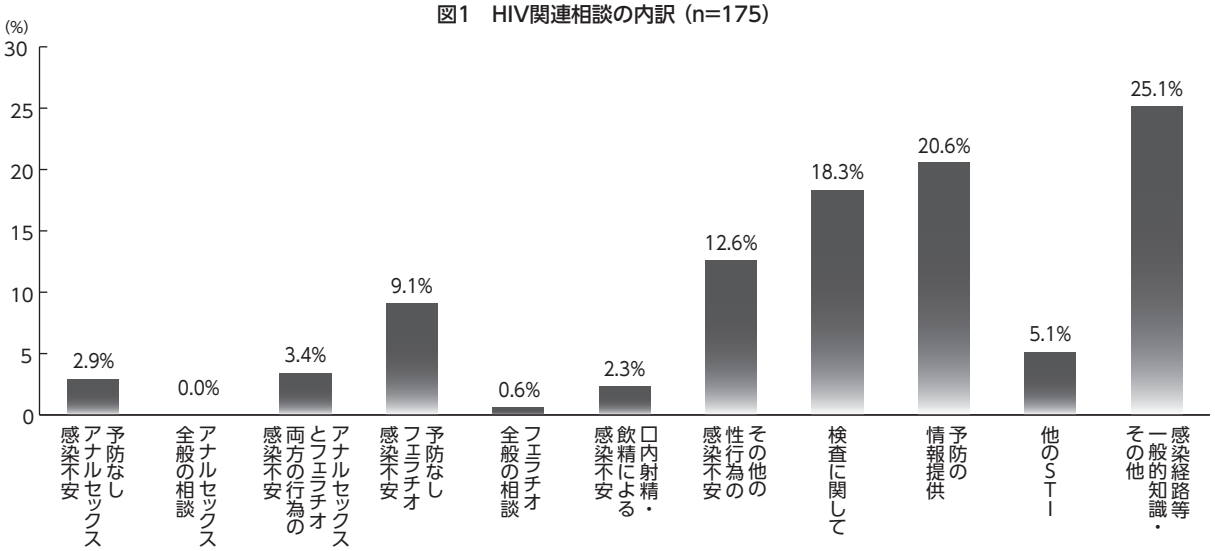


図1　HIV関連相談の内訳 (n=175)



前年度と比較すると「ライフコース(ゲイとしての生き方)」が9.0%→21.6%、「メンタルヘルス等」が9.0%→3.6%、「セクシュアリティ」が3.8%→10.8%、「恋愛・人間関係」が14.1%→18.0%と変動した。

ライフコース(ゲイとしての生き方)」では、カミングアウトやハッテン場に関する相談などがあった、「恋愛・人間関係」では、出会いの機会、結婚しているが男性と関係を持っていると言った相談などが寄せられた。

「セクシュアリティ」では、自分の性的指向への迷いに関する相談などが寄せられた。

(9) 陽性者等の対応について…5件

2022年度の陽性者等の対応は、HIV陽性者からの相談が4件、パートナーや友人など陽性者本人以外からの相談が1件、検査での要確認の相談が0件で、全相談件数に対する陽性者等の割合は、直近の3年間では、13.0%→11.1%→4.4%と推移している。

陽性者等の相談内容は、最近陽性と分かり友人や会社などへの告知をどうしたらよいか、が多かった。コロナに感染したがどうしたらよいか、といのもあった。

周囲の相談としては、陽性と分かったパートナーから別れを告げられて、とてもショックを受けているという切実な相談があった。

●今後の課題

A. 相談員の増員、学習等

今年度も仕事の関係などでシフトを変更する事が非常に多かった。その際にはシフト調整係が活躍した。

今後、仕事などの関係でシフトに入れなくなるスタッフが出る事も考えられるため、引き続き人員の育成を検討していく必要があるだろう。

B. 相談日数・時間枠の検討と広報の必要性

今年度の相談件数は、コロナ感染症などで中止していた前年度より増えてはいるがさほど増えてはいなく、どうすれば増やしていけるかは毎年考える課題である。

広報では、今年度は不明件数が過半数だったけれど、やはりインターネットで知った相談者が多いので、そこに重点的に広報をして行きたいと思います。

C. 陽性者等の対応に関して

今年度は4.4%しかなく過去5年間で一番少なかった。これは、ポジティブラインが土曜日もやっていることや、過去に頻繁にかかっていた陽性者のリピーターが、かかってこなくなったからかもしれない。相談員それぞれにHIVとの関わり方に違いはあるがHIVを身近に感じているゲイとして、これからも陽性者等が孤立しないよう対応していきたい。

専門性の必要とされる情報に関しては、適切な相談機関を案内しているが、Gフレ電話相談実施時間に他の相談電話が実施されていない事を考えると、現在よりも陽性者の必要とする情報等について更に知識を深めて行く努力をして行きたい。

D. 非HIV関連相談に関して

今年度も様々な相談が寄せられた。非HIV関連の相談では、相談員ごとの価値観の違いにより、回答に違いが生じると思われるが、人それぞれ置かれた環境の違いから相談者自身でしか答えを出せない事、他の相談員の場合違う回答になる可能性を伝えた上で、自身の経験など参考になりそうな話をしている。

専門外ではあるが、セクシャリティーやゲイとして生きる事など、相談機関が少ない事などを考えると今後も可能な限り対応して行きたい。相談者の今後の人生の選択に大きく影響する事も考えられるので、今後もミーティングやケースカンファレンスで情報を共有し、様々な考えや指向など共有していきたい。

【データ作成・報告】よし

2. イベントでの活動

イベントについてはSH部門(Sexual Health)と連動しながら、TOKYO RAINBOW PRIDE、TOKYO AIDS WEEKSに参加した。

(いくしま)

Ⅰ．活動概要

主な活動は、ネスト・プログラムの企画・運営、プログラムのための人材育成・研修である。

(A)ネスト・プログラム

【目的】
HIV陽性者・パートナー・家族が安心して話し合う場・学習や情報交換の場・交流の場の提供

【対象】
HIV陽性者、パートナー、家族

【利用登録】
プログラム参加にはグラウンドルールの承諾を含めた事前の利用登録が必要（対面またはオンライン）

【プログラム】
「グループ・ミーティング」「学習会／セミナー」「交流会／ピア＋トーク／パーティ」「小ミーティング」

【企画】
ネスト・プログラム担当・相談員で行う毎月2回のミーティング、ボランティア・スタッフを交えた企画会議、利用者からの意見を伺う会など

【広報】
ぷれいす東京Webサイト、ネスト・ニュースレター（毎月発行）、メール配信、SNS（Facebook・Twitter）

(B)人材育成・研修

【ネスト・スタッフの役割】
ファシリテーター（プログラムの進行役）、セクレタリー（プログラムの受付係）、ネスト・ニュースレター発送業務、フライヤー作成、多目的室整備、「陽性者と家族の日記」ライターなど

【人材育成】
ぷれいす東京新規ボランティア研修→ネスト・プログラム部門研修→個別オリエンテーション→ミーティング参加など→OJT（実地研修）

Ⅱ．2022年度活動実績

(A)ネスト・プログラム
（2022年4月1日～2023年3月31日）

○スタッフ数（2023年3月31日現在）　5名

○ネスト・スタッフ数（2022年3月31日現在）100名

○実利用者数　175名
（うち新規利用者数　42名）

○のべ利用者数　626名
（うちピア・ファシリテーターなど積極的参加　59名）

○プログラム開催数　93回
プログラム内容は**表1**を参照

○ネスト・ニュースレター　月1回　年12回発行

その他に、ネスト・プログラム・スタッフ会議（2回／月）、新陽性者PGMファシリテーターによる各回・各期の振り返りミーティング、その他各プログラム担当ファシリテーターやセクレタリーの振り返り、多目的室の整備など適宜開催。

(B)人材育成・研修

○2022年度 ネスト・スタッフ研修修了者数　6名

Ⅲ．2022年度活動報告

(A)ネスト・プログラム

ぷれいす東京Webサイトの「ネスト・プログラム」には、ネスト・プログラムの報告や参加感想文が多数掲載されているので、あわせてお読みください。

表　ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	**47回**	**288名**	**45名**	**22名**	**34名**	
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)	10回	39名	14名	8名	10名	—
2 ミドル・ミーティング(40才以上の男性陽性者)	10回	97名	9名	9名	1名	—
3 U40ミーティング(10代,20代,30代男性陽性者)	10回	27名	10名	—	10名	—
4 異性愛者ミーティング	12回	82名	12名	—	13名	—
5 クロスボーダー＋ミーティング	5回	43名	—	5名	—	
6 ミックス・トーク10(MT10)	—	—	—	—	—	—
7 陰性パートナー・サポートミーティング	—	—	—	—	—	—
8 群馬サテライト・ミーティング	—	—	—	—	—	—
9 川崎サテライト・ミーティング	—	—	—	—	—	—
10 Women's Salon(女性陽性者のためのプログラム)	—	—	—	—	—	—
11 大人女子会	—	—	—	—	—	—
12 もめんの会(HIV/エイズを支える母親を中心とした親の会)	—	—	—	—	—	—
(ロ)学習会/ワークショップ/セミナー	**7回**	**111名**	**0名**	**8名**	**3名**	**29名**
1 ストレス・マネジメント講座	4回	25名	—	4名	—	4名
2 就職支援セミナー	2回	50名	—	2名	2名	23名
3 専門家と話そう	1回	36名	—	2名	1名	2名
4 ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」	—	—	—	—	—	—
5 ベーシック講座「HIVってどんな病気？」	—	—	—	—	—	—
6 アサーション・トレーニング	—	—	—	—	—	—
(ハ)交流会	**27回**	**132名**	**7名**	**26名**	**2名**	**2名**
1 就職活動サポートミーティング	7回	16名	1名	6名	—	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	6回	27名	2名	5名	—	—
3 医療者(看護師)として働く陽性者のための交流会	6回	31名	—	6名	1名	—
4 障害者枠で働く陽性者の交流会	4回	22名	—	4名	—	—
5 パーティ(サマー・年末)	1回	11名	1名	2名	—	—
6 しゃべり場ミーティング	1回	10名	1名	—	—	1名
7 教師として働く陽性者のための交流会	1回	2名	—	1名	—	—
8 ピア＋トーク	1回	13名	2名	2名	1名	1名
9 カップル交流会(＋/＋or＋/－カップル)	—	—	—	—	—	—
(ニ)小グループ・ミーティング、その他	**12回**	**36名**	**7名**	**11名**	**1名**	**0名**
1 English Speaker's Meeting	6回	23名	6名	5名	1名	—
2 中国語を話すHIV陽性者のミーティグ	5回	12名	—	5名	—	—
3 ZOOM初心者ミーティング	1回	1名	1名	1名	—	—
4 ぷれいすトーク in ネスト	—	—	—	—	—	—
5 既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング	—	—	—	—	—	—
プログラム参加者総数	**93回**	**567名**	**59名**	**67名**	**40名**	**31名**

(イ)グループ・ミーティング

表（イ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	47 回	288名	45 名	22 名	34 名	—
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)	10 回	39 名	14 名	8 名	10 名	—
2 ミドル・ミーティング(40才以上の男性陽性者)	10 回	97 名	9 名	9 名	1 名	—
3 U40ミーティング(10 代、20 代、30代男性陽性者)	10 回	27 名	10 名	—	10 名	—
4 異性愛者ミーティング	12 回	82 名	12名	—	13 名	—
5 クロスボーダー＋ミーティング	5 回	43 名	—	5 名	—	—

■ 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)

【対象】
HIV 感染がわかってから 6 ヶ月以内の陽性者

【定員】
原則 5 ～ 7 名

【開催回数】
2 時間のミーティングを 2 週間毎に計 4 回実施

【実績】
2001 年 4 月に第 1 期スタート、2023 年 3 月までに通算で 416 回開催、参加者数はのべ 2,179 名（実人数：598 名）

【目的】
HIV 感染告知後の新たなスタートを切ってもらうこと

【進行】
ピア・ファシリテーター（HIV 陽性者当事者スタッフ）1 名＋スタッフ・ファシリテーター（進行担当）1 名またはピア・ファシリテーター 2 名

2022年度は第109期3回目から第111期の4回目まで実施、前年度に引き続き原則オンライン開催となったが、第111期3回目と4回目はハイブリッド開催（対面＋オンライン）となった。

■ ミドル・ミーティング

【対象】原則 40 代以上の男性 HIV 陽性者
【開催】毎月第 2 土曜日
【進行】ぷれいす東京スタッフ

■U40ミーティグ

【対象】原則 10 代～ 30 代の男性 HIV 陽性者
【開催】原則毎月 1 回月の後半に開催
【進行】ピア・ファシリテーターによる交代制
1 月と 3 月はハイブリッド開催とした。

■ 異性愛者ミーティング

【対象】異性愛の男女の HIV 陽性者
【開催】原則奇数月第 4 土曜日、偶数月第 3 金曜日
【進行】ピア・ファシリテーターによる交代制
3 月はハイブリッド開催とした。

■ クロスボーダー＋ミーティング

【対象】海外移住を希望していたり海外に興味のある HIV 陽性者、海外在住の HIV 陽性者
【開催】隔月開催
【進行】ぷれいす東京スタッフ

(ロ)学習会／ワークショップ／セミナー

表（ロ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(ロ)学習会/ワークショップ/セミナー	7回	111名	0名	8名	3名	29名
1 ストレス・マネジメント講座	4回	25名	—	4名	—	4名
2 就職支援セミナー	2回	50名	—	2名	2名	23名
3 専門家と話そう	1回	36名	—	2名	1名	2名

HIVと長く付き合いながら、自分らしく生きていくために必要なスキルを身につけるためのワークショップや、専門家からの情報、社会制度の基礎など、陽性者に役立つ情報を提供する学習会、企業の人事担当などを招いて行う「就職支援セミナー」などを開催している。

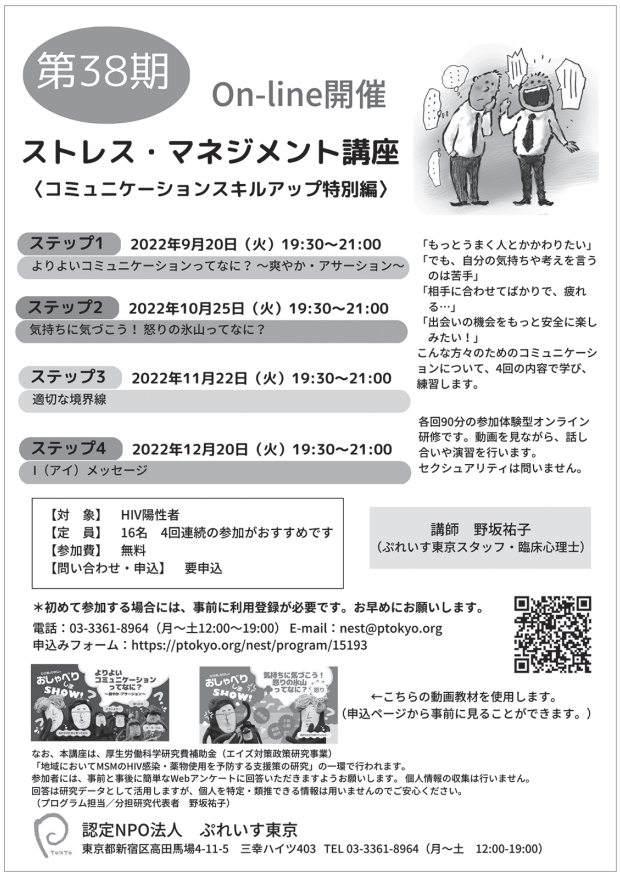
■ストレス・マネジメント講座
～ストレスとうまくつきあうためのワーク～

【対象】HIV陽性者
【定員】16名
【目標】ストレスに関するワークによってマネジメントスキルを身につけること
【開催】1期全4回（1回1時間半）
【講師】臨床心理士の資格を持つぷれいす東京スタッフ

今年度は厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「地域においてMSMのHIV感染・薬物使用を予防する支援策の研究」の一環として従来の全3回から4回に変更して、9月に第38期を開催。

■就職支援セミナー
【対象】就職・転職に興味のあるHIV陽性者
【開催】年に2回

今年度は5月に第17回(8企業参加)、9月に第18回(3企業・1団体参加）を開催。



■専門家と話そう

【対象】HIV 陽性者

【開催】原則年２回

今年度は12月に第26回「専門医と話そう～注射薬について知っておこう－今年6月に発売された注射薬について知っていますか？」を開催した。アーカイブ動画も公開している。

（ハ）交流会

表（ハ）　ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
（ハ）交流会	27 回	132名	7 名	26 名	2 名	2 名
1 就職活動サポートミーティング	7 回	16 名	1 名	6 名	—	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	6 回	27 名	2 名	5 名	—	—
3 医療者（看護師）として働く陽性者のための交流会	6 回	31 名	—	6 名	1 名	—
4 障害者枠で働く陽性者の交流会	4 回	22 名	—	4 名	—	—
5 パーティ（サマー・年末）	1 回	11 名	1 名	2 名	—	—
6 しゃべり場ミーティング	1 回	10 名	1 名	—	—	1 名
7 教師として働く陽性者のための交流会	1 回	2 名	—	1 名	—	—
8 ピア＋トーク	1 回	13 名	2 名	2 名	1 名	1 名

境遇や立場がより近い陽性者同士で集まって、日ごろ疑問に思っていることや経験を可能な範囲で共有して、交流をする場である。

■ 就職活動サポートミーティング

【対象】就職・転職活動をしている HIV 陽性者

【開催】毎月（平日と土曜日の交互開催）

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ 介護職として働く陽性者の交流会

【対象】介護職として働く HIV 陽性者、これから介護業界を目指す HIV 陽性者

【開催】偶数月開催

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ 医療者（看護師）として働く陽性者の交流会

【対象】医療系の有資格者の HIV 陽性者

【開催】奇数月開催

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ 障害者枠で働く陽性者の交流会

【対象】障害者枠で働いている HIV 陽性者

【開催】３ヶ月に１回

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ パーティ（サマー・年末）

【対象】HIV 陽性者、陰性パートナー、配偶者、父母きょうだい

【開催】年末は 12 月、サマーは 8 月頃

【進行】ネスト・スタッフ

【内容】自己紹介、サイコロトーク、ネスト・プログラムの紹介など

今年度は昨年度と同様に年末パーティをオンラインにて開催。サマーは開催なし。

■ しゃべり場ミーティング

【対象】HIV 陽性者

【開催】不定期

【進行】ぷれいす東京陽性者スタッフ

コロナ禍で気持ちがモヤモヤしている HIV 陽性者が自由に話せる場として開催。

■ 教師として働く陽性者の交流会

【対象】HIV 陽性者

【開催】不定期

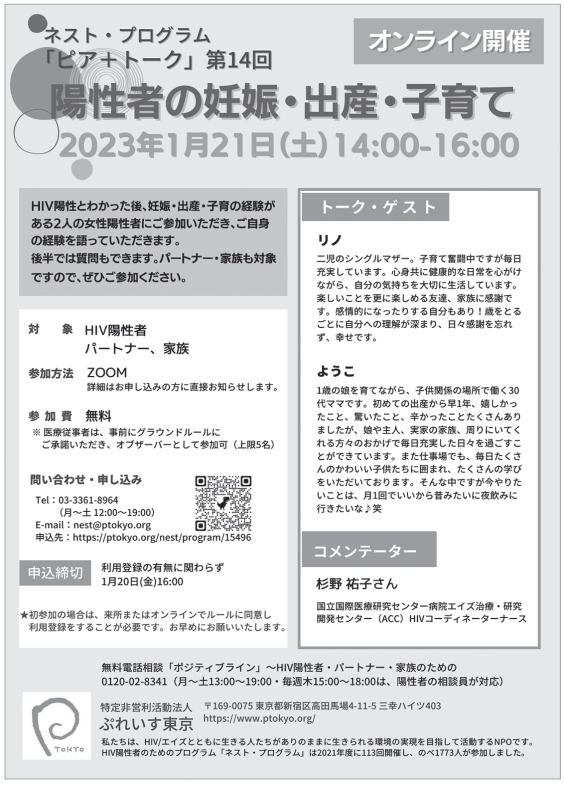
【進行】ぷれいす東京陽性者スタッフ

■ ピア＋トーク

【対象】HIV 陽性者

【開催】不定期

今年度はコロナ禍前に企画して延期となっていた「陽性者の妊娠・出産・子育て」をテーマとし女性陽性者 2 名と専門家コメンテーター（ナース）を迎えて開催。



（ニ）小グループ・ミーティング、その他

表（ニ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
（ニ）小グループ・ミーティング	12 回	36名	7 名	11 名	1 名	0 名
1 English Speaker's Meeting	6 回	23 名	6 名	5 名	1 名	—
2 中国語を話すHIV陽性者のミーティング	5 回	12 名	—	5 名	—	—
3 ZOOM初心者ミーティング	1 回	1 名	1 名	1 名	—	—

相談の延長線上でいくつかの小グループ・ミーティングを開催している。中国語や英語など外国語話者のためのミーティングの他、希望者があれば開催を検討するいくつかのミーティングがある。

小グループ・ミーティングは通常のネスト・プログラムのように利用登録を必須としていないが（ぷれいすトーク in ネストを除く）、グラウンドルールの確認などでプライバシーに対する配慮を行なっている。

■ English Speaker' s Meeting

【対象】英語を話す HIV 陽性者（日本人も参加可）

【開催】隔月開催

【進行】ピア・スタッフ、ぷれいす東京スタッフ

■ 说中文的HIV阳性者集会
～中国語を話す陽性者のミーティング

【対象】中国語を話す HIV 陽性者

【開催】3 ヶ月に 1 回

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ ZOOM初心者ミーティング

【対象】ZOOM の使い方に不慣れな HIV 陽性者

【開催】希望者があった場合に個別に調整

【進行】ぷれいす東京スタッフ

(B)人材育成・研修

ネスト部門の人材育成・研修は、2012 年度に初めて行った。2022 年度も新規ボランティア研修修了者を対象に、ネスト部門の募集を行い、11 月 3 日（木・祝）にネスト部門研修をオンラインで開催、ネスト部門を希望した 6 名が参加した。研修は生島とピア・プログラム担当スタッフの加藤が担当した。プログラムでは、実際にファシリテーターを経験してもらうグループ・ワーク形式の実践的なものや、ぷれいす東京への提言、自分がどう関わることができるかなどを考えてもらうような内容のものを行った。

「新規ボランティア研修」→「ネスト・スタッフ研修」から、プログラムのファシリテーターやセクレタリーへと繋がる流れを継続しているが、プログラムのオンライン化に伴い、従来の役割分担の中では充分な活躍をしてもらうことが困難であった。プログラムのハイブリッド化により、参加者の入場チェックなどを担うセクレタリーや、司会進行を司どるファシリテーターの業務にも変化が生じると思われる。SNS を利用した広報活動など、時代に即した効果的なプログラム運営が求められている。東京近郊だけではなく、広く全国、ひいては海外を含めて活動の広がりが必須であり、ボランティア・スタッフにはさらに多岐に渡る活動を期待している。そのための育成プログラムの構築が急務である。

Ⅳ．最後に

2011 年 1 月より利用登録制がスタートし、利用者の安全性が大幅に向上した。これまでの利用登録者は 1,413 人（2023 年 3 月末現在）となっている。新型コロナウイルスの影響により、新規利用登録者の数は昨年とほぼ同水準で、例年の半数程度に止まった。

ネスト・プログラムでは、利用者である当事者の声からその要望に応える形で新規プログラムの企画を行ってきた。今年度はネスト･プログラムとしての新規開催はなかったが、「カミングアウト・なんでも相談」を立ち上げた。相談に対してハードルを感じている方々のために、どんなことでも緩く話せる場として設定したが、期せずしてぷれいす東京の他のサービスへの入り口として機能している。

2019 年度の終わりから続く新型コロナウイルスの影響により急速に進んだオンライン化によって、遠方の利用者が参加しやすい環境になった反面、これまでの参加者が離れてしまうデメリットも発生していた。徐々に対面とオンラインを融合したハイブリッド開催へと移行しており、新しいプログラムの運営を目指している（P.3「ネスト・プログラムのハイブリッド化」参照）。運営スタッフ、ボランティア・スタッフ共に、利用者の求めるより心地良い参加環境の構築に尽力したいと考えている。

今年度新たにネスト・プログラムのコーディネーターとして 1 名の陽性者スタッフを迎えた。これまで以上に細やかなコーディネートを目指したい。

謝辞

今年度も多くの個人のみなさまと団体からご寄付をお寄せいただきました。社会情勢が厳しくなっているなかでご支援いただいたことを深く感謝いたします。机と椅子の入れ替えやパーティションの増設など、ハイブリッド開催の環境整備にあたっては、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会、公益財団法人昭和池田記念財団に助成をいただいた。プログラムに助成していただいた東京都福祉保健財団、ご寄付をお寄せいただいたヴィーブヘルスケア株式会社、MSD 株式会社、オフィス Two I、ギリアド・サイエンシズ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社（五十音順、敬称略）、そして多くの個人のみなさまに改めて御礼申し上げます。

（文責：加藤 力也、大島 岳、原田 玲子、生島 嗣）

Ⅴ．感想文

第26回専門家と話そう「専門医と話そう～注射薬について知っておこう」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2023年1月掲載より）

■「新しい選択肢をどう生かすか?」

こたろう（感染告知2016年／服薬歴6年／初参加／30代）

注射薬の話は何回か前の受診の時に主治医から聞いてはいたものの、今一つピンと来ていなかった。

単純に毎日薬を飲まなくてもよくなるから楽になるかな…程度にしか考えておらず、それよりも実績の浅い注射薬に対する信頼性がまだよくわからず、それなら今までの薬でいいかなと思っていた。

今回ウェビナーに参加し、すでに注射薬を選択している方がおり導入実績も広がっている事、メリット・デメリットを比較し継続性に心配がない事などを知ることができ、生活リズムや環境を変える契機になるかもしれないと考えるようになった。

現在通院している医療機関で注射薬の導入が可能かどうかわからないが、次回受診の際に主治医に聞いてみようと思った。

第26回専門家と話そう「専門医と話そう～注射薬について知っておこう」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2023年1月掲載より）

■「HIV注射薬のセミナーに参加して」

てつ（40代／男性（ゲイ）／服薬歴15年）

15年の服薬歴がありますが、新しい治療法が発表されたときは驚きました。

しかし新しいものに対する不安感や疑問などたくさん出てきましたが、セミナーに参加して少し解消されました。まだまだ普及率は低いと思いますが、今までの口径薬の治療もどんどん進化していった経緯を知っているので、これからも新しい方法が出てくることが楽しみです。

自分に「やってみようかな」というものが出てきたら、生きている間試すこともできると思います。冷蔵保存の治療薬の時代を知っている者としては、HIVの治療方法も世間の認識も変わってきている社会になってきていると感じます。

陽性者当事者として、今後の治療の発展を祈っています。

ありがとうございました。

第17回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年8月掲載より）

■「理念がお題目じゃない会社」

ぽ（感染歴15年／HIVカミングアウトこれから／初参加／40代）

各企業の説明を聴いている時には、違和感があった。そして、うがった見方をしている自分にも気が付いた。「どうせ法定雇用率のためにHIV陽性者で手帳持ち障がい者を雇用したいのでしょうよ」と。会社は利益をあげて、次の利益のために資源を活用する。そのことに疑問はないが、会社の価値や社会的意義を高めるのは、人間が中心になっているかということだと思う。

会社説明の中で、理念をしっかりと伝えてくれる企業がいくつもあった。それはとても素敵な言葉で、誠実さや人間の尊厳を大事にしていることがよくわかった。わたしはうれしくなって、その理念をどのように実現させているのかをブレイクアウトルームで聞いてみた。すると、「休みやすい職場づくりをする」「不調の仲間には毎日連絡をする」「仲間意識がもてるようなきっかけづくりをする」という工夫があることがわかった。大企業にありがちな、理念が看板だけで、唱和するだけのものでないことがよくわかった。採用担当の方が、「まだすぐにはできないけれど」と会社の内部事情をお話してくださる姿勢にも誠実さを感じた。

わたしはHIVに感染してから、どうも「どうせ、わたしなんか」と考える癖がある。ひがんでいるのだ、健常な人を。でも今回、障がいを持った人、HIVポジティブの人をたくさんの企業が採用したいと感じられたことはとても大きい。

会の最後のほうで、何年も前から、HIVポジティブの人を採用しない企業に疑問を感じ、一歩ずつはたらきかけることで採用の枠がひろがっている歴史を聴いた。また薬害エイズ訴訟のサポートをしてきた採用担当者の話を聴いた。そのような人たちに支えられて、今の私があるのだと理解できた。理念をお題目にしないことを企業に求めるなら、私も変わらなければならない。ひがみや妬みでなく、自分を成長させる考え方で社会にどのように貢献できるのか…試行錯誤していきたい。明日からもがんばろうと思えるセミナーだった。ありがとうございました。

第17回就職支援セミナー参加者の感想文
(「ぷれいす東京Webサイト」2022年8月掲載より)

■「器の広さを感じ取れました。」

やーま(服薬歴17年／60代／初参加)

コロナ禍で職を失い、精神的に病んでしまい身体障碍に加え精神障害の手帳を持つこととなりました。60歳を超えていること、精神・身体両方の障害を持っていることで、もはや就職は難しいのかなと思う日々を過ごしておりました。

今回参加をし各企業様の懐の厚さを肌で感じ、その不安は消えました。少しでも前を向いて就職に向けて踏み出すきっかけを作っていただけました。世の中器の広い企業様が沢山あることを知れた良い機会となりました。これまでは障害をクローズして就労しておりましたが今後の障がい者としての就労を後押ししていただけました。率直に感謝の一言です。ありがとうございました。

第18回就職支援セミナー参加者の感想文
(「ぷれいす東京Webサイト」2023年3月掲載より)

■「一歩踏み出せそうな予感」

まるこ(2000年感染／30代)

今まで色々なことにチャレンジしてきたつもりでしたが、30代後半になり、自信を失っていました。何やってもダメな気がする、私って何にもできないんだー。とウジウジしていました。なかなか次の仕事を選ぶことすらできず。毎日立ち止まってしまった気分でした。

今回就職セミナーを受けて、取り敢えず話を聞いて一歩踏み出せるといいなと思っていました。話を聞いてみて、企業の皆さんの努力している姿勢を感じました。障害者を入れなきゃいけないから、、というわけではなくお互いに仕事をする上で尊重し合う、勉強し合うという、ポジティブなエネルギーを感じました。ウジウジしている場合ではないですね。自分の良い部分と悪い部分を良く考え、今後の就職活動、その後の仕事に活かしたいと思いました。何もできないわけではないし、今までも頑張ってきたじゃないかと思いを改めることができました。ありがとうございました。

第18回就職支援セミナー参加者の感想文
(「ぷれいす東京Webサイト」2023年3月掲載より)

■「ふと障害者枠の雇用って？？と気になり覗いてみた」

キリマンジャロ(服薬歴7年／就職支援セミナー初参加)

気になっていた就職支援セミナー。でも、環境や体調や気持ちや、色んなことが落ち着かなくて、感染告知前からやってた仕事、好きだったので告知後も懸命にやってきた。

そんな中、ぷれいすさんからくるお知らせに、「あぁ、こういう催しもあるんだな、すごいな、手厚い支援だな、どんなんだろ？　でも、、」と気になりつつもなんとなく参加を見送ってきた。

でも、ふと、見学の気分でもOK、の言葉を見つけたり、今現在の働き方からシフトして、自分の状態をちゃんとわかってもらってる、という安心感の中で働けるのって一体どんな気持ちなんだろう？と思ったりする気持ちが高まり、今回のオンラインセミナーに初参加させて頂いた。

ちょっと見学、という気持ちだったけど、参加企業さんのお話しを聞いて、ブレイクアウトルームで、自分は見学するだけだから、と思っていたのに、ついつい質問したくなって質問させて頂き、担当者さんから直接応答を頂いたりして、次第に、人生の中で、次のステップに移っていきたい、移っていける受け皿が、世の中に実は探せば色々あるんだと、改めて気がついたら気持ちがワクワクし始めていた。

新しいことにチャレンジしていく時って、そう！この感覚。他の参加者さんの質問を聞くのもとても有意義で、こういう場がありがたいと思った。

仕事終わりの時間が遅いので参加ムリだな～と思っていたけど、途中からでもいいですよと快く言ってもらえて感謝です。

気になったら少しでも、一歩でも行動を起こすことが、結局は自分を未来へ連れていくことなんだと思うので、がんばりたいと思いました。

ありがとうございました。

第14回ピア＋トーク「陽性者の妊娠・出産・子育て」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2023年3月掲載より）

■「【生きる】を考える」

Kazuya（2013年感染告知／30代）

僕はgay男性ですが、同じ陽性者として生きている女性の陽性者はどんな生活をして、どんな悩みがあるのかを聞きたく参加させていただきました。

勇気あるご登壇に感謝しております。ありがとうございます。

出産は体験できない男性が聞いていても、とても勇気をいただくお話でした。HIV陽性者が出産する際の方法、病院選びなどの選択肢の問題、出産を終えて子どもを育てる際のママ友との会話の内容へのお気遣い、今後お子さんに伝えるべきか、こんなにもたくさん考える事、時間が必要なのか…と驚きました。そしてその経験をして今も尚、様々な事を考えながら生活しているスピーカーのお2人がたくましく見えました。

僕自身はgay男性ですが、当然そんな僕も女性である母親から生まれてきました。関係の無い人なんていない内容でした。HIV陽性者に限らず、世界中の方に聞いていただきたい内容でした。

ぜひお2人の今後のお話もまた伺いたいですし、何か協力できることはないかな？と思っております。

本当に、ありがとうございます！！！

第14回ピア+トーク「陽性者の妊娠・出産・子育て」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2023年3月掲載より）

■「妊娠出産を取り巻く環境の数年ごとの大きな変化を感じました」

エレクトラ（クイア／HIV陽性）

スピーカーお二人のお話を聞き、妊娠と出産はなにもなくても大変ですが、HIVの治療を並行しつつ、情報収集、周りの人とのコミュニケーション、ご自身の精神的ケアなど、多面的・複合的に大変なご経験をされたのだと思いました。

リノさんが触れられたシロップの投薬について、母子感染予防を行うためにそういった薬があることを初めて知りました。

ようこさんのご友人がお見舞いの場で勘を働かせて話を聞いたというところで、私自身の友人のことを思い出して涙が出そうになりました。

杉野さんが、お二人の経験談はそれぞれの時代背景をはっきり反映しているという主旨のことを仰っていましたが、妊娠・出産を取り巻く状況が改善されていくことは、HIV/AIDSの歴史を振り返ったり今後を考えたりする上でとても大きくて重要な柱だと思いました。

スピーカーとして登壇されたお二人と杉野さんに心から感謝します。

第14回ピア+トーク「陽性者の妊娠・出産・子育て」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2023年3月掲載より）

■「未来を変えるのは自分自身」

りさ（2022年告知／服薬1年／30代／女性）

今年結婚をすることになった私にとっては、とてもタイムリーなセミナーでした。

結婚も出産も、病気を言い訳に諦めてしまっては何も変わらないということを改めて痛感しました。

このセミナーの内容をパートナーとも早速共有して、妊活をスタートしていきたいと思います。

貴重なセミナーを開催してくださり本当にありがとうございました。

※ぷれいす東京Webサイトには、プログラムごとに多くの参加感想文が掲載されていますので、ぜひお読みください。

1. スタッフ研修

バディ・スタッフとして活動するには、基礎研修を受けた上で部門研修を修了することを条件としている。基礎研修は、HIV/AIDSに関する知識を身につけるとともに、自己のHIV/AIDSのイメージを認識することを目的としている。部門研修は、バディとしての関わり方をどのようにもつか、自分自身でイメージしてもらうことを目的としている。基礎研修は、年に1度の各部門合同での「新規ボランティア研修」にて、部門研修は「バディ・ワークショップ」にて行っている。

(1)基礎研修

●新規ボランティア研修

今年度は2022年9月23日、25日の2日間、オンラインで行なわれた。この研修は各部門合同であり、研修項目も共通したものとなっているが、バディ部門のみならず、ぷれいす東京の全体の活動とHIV感染症の関連領域も学び、幅広い視点と知識を得てもらうことを目的としている。（詳細は6ページを参照）

（実　績）

2022年度の研修の終了時点での活動希望者は4名となった。

(2)部門研修　　バディ・ワークショップ（8時間）

バディとして活動を始めようとする自分自身を見つめ直すこと、またクライエントがどのような状態にあるのか理解を深め、その上でバディの役割とは何か、クライエントとの関係性について、自分がバディとして何ができるか、等を考えてもらうことがこのワークショップの目的となっている。

（内　容）

・アイスブレーキング
・自分の最初の喪失について
・自分がバディだったら（仮想体験）
・HIV陽性者と語る
・喪失を体験するワークショップ
・分かち合いの時

（実　績）

今年度もCOVID-19の状況を鑑みて開催せず。

2. スタッフ・ミーティング/交流会

●バディ活動スタッフのためのミーティング

活動中のスタッフを対象として、バディ・ミーティングを行っている。午前ミーティングは、奇数月/第1土曜日/11:00～、偶数月/第1木曜日/11:00～に開催、夜間ミーティングは第3木曜日の19:00～で開催した。なお午前ミーティングについては参加者が少ないため、参加がある場合にのみの開催としている。

参加者は、それぞれが担当しているクライエントとの関わりについて、担当者同士やコーディネーターと相談できたり、お互いにアドバイスしあえる場となっている。また、必要に応じて、個別にクライエントに関わる個別ミーティングやスーパーバイズも実施している。

また、不定期ではあるが、バディ同士の交流を目的とした交流会も開催している。

（実　績）

2022年度もCOVID-19の感染拡大を踏まえ、開催は参加者がある時だけの開催とし、最終的には5回開催、のべ10名が参加した。個別ミーティングは7回実施した。

3. 登録バディのフォローアップ・トレーニング

●フォローアップ研修

基礎トレーニングを終了したスタッフを対象とした研修となっており、待機中のバディに陽性者との関わりについてイメージする機会を持ったり、関係の深い問題について知識を得る機会を提供している。

また、既にバディ活動を行っているスタッフが、自分とクライエントとの関係について、バディの役割について、客観的にとらえる機会になることを目的としている。今年度も開催せず。

4. スタッフの構成（2023年3月末現在）

(1) 性別

男　性	24人
女　性	13人
合　計	37人

(2) 年齢

30歳代	4名
40歳代	11名
50歳代	16名
60歳代	3名
70歳代	1名
80歳代	2名

5. 2022年度バディ活動実績

(1) 派遣依頼

・前年度より活動を継続 12名
・活動休止中 8名
・新規依頼 2名
合　　計　　22名

・バディ派遣終了 3名
派遣終了理由　　死亡 0名
ニーズの消失 3名

※2022年3月末現在の派遣状況
・活動休止中 8名
・派遣継続中 11名
合　　計　　19名

(2) 活動バディ・スタッフ

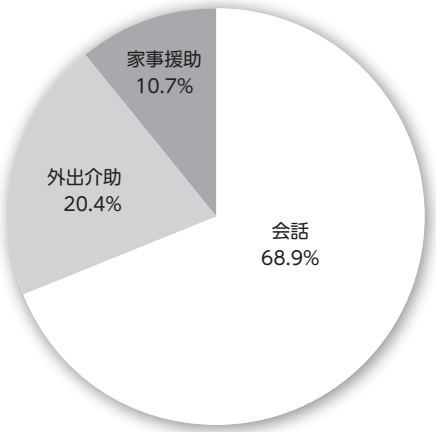
派遣依頼 14 名(休止中 8 名を除く) に対し 17 名のスタッフを派遣した。(クライエント1名に対する実人数でカウント)

(3) 活動内容

今年度のバディ派遣も、COVID-19 の影響を大きく受けた。直接支援の活動であり、依頼者の自宅に訪問し、活動を行うため、今年度も感染状況をみながら、クライエントとバディの両者と相談し、不安のない中で活動できるように調整を行った。

スタッフの報告をまとめたところ 103 件で、うち電話によるコミュニケーション(訪問連絡等の電話は件数に含まず)は 66 件 (64.1%)、在宅訪問は 37 件 (35.9%)、病院への訪問は 0 件で、今年度の総活動時間は約 113 時間となった。

全体の内容別活動のまとめ (n=103)

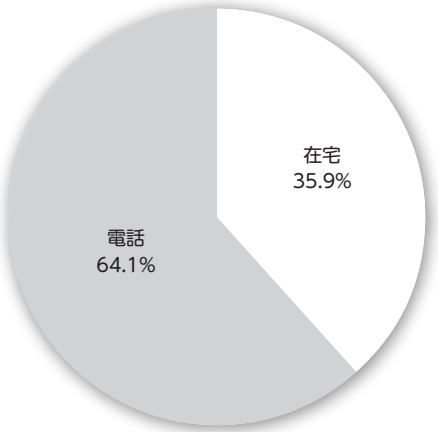


(4) 訪問先とサービス内容

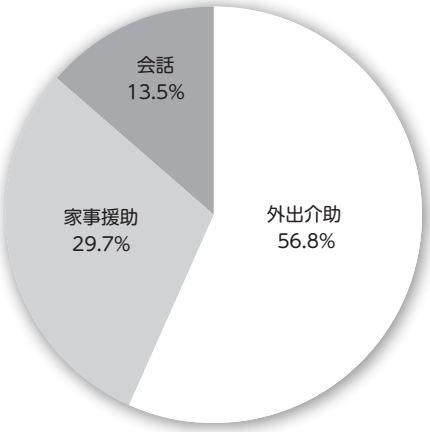
●在宅

在宅での主な活動について、合計で 37 件の活動があった。内容は、外出介助が 21 件 (56.8%)、家事援助が 11 件 (29.7%)、会話が 5 件 (13.5%) となった。家事援助は、家の整理や掃除などでの活動、外出介助は車椅子や杖利用者の外出時の介助 / 同行の活動であった。会話は、在宅療養している人とのコミュニケーションや気分転換などを目的とした活動であった。今年度も COVID-19 の影響を受け、外出を不安に感じ、外出介助を中止するクライエントが当初は多かったが、秋以降に再開するケースも増えた。ちなみに、外出介助やその他の活動においても、会話をしながら活動しているケースがほとんどである。

主な活動先 (n=103)



在宅での活動内容 (n=37)



●病院

今年度も病院や施設で活動ができない状況が続き、活動はなかった。

●電話

在宅の方、病院に入院中や施設に入所中の方に、定期的に電話で連絡をし、近況を聞いたり、人間関係を継続する活動になっている。今年度も、COVID-19 の影響で自宅への訪問を中止するケースが増えたため、電話で連絡する機会が多く、今年度は、66 件の活動があった。

6. まとめ

●新規依頼と終了したケースの内容と傾向

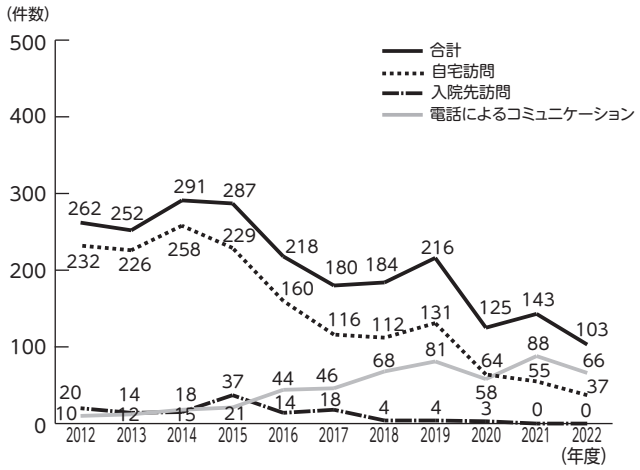
新規に依頼を受けたケースは 2 件あり、内容は、外出介助、外出同行等での依頼であった。1 件はまだ相談段階で、実際には活動がなく調整を続けている。

活動が終了となったケースは 3 件で、全てニーズの消失による終了であった。

●派遣件数の変化

今年も病院での活動はなく、電話による会話が在宅訪問の件数を上回った。できるだけ、在宅訪問を再開したいところだったが、クライエントとバディが安心して活動できることを念頭に置き、無理のない範囲で訪問を行った。バディにとっても、クライエントにとっても我慢が続いた 1 年でもあった。

年次活動件数の推移

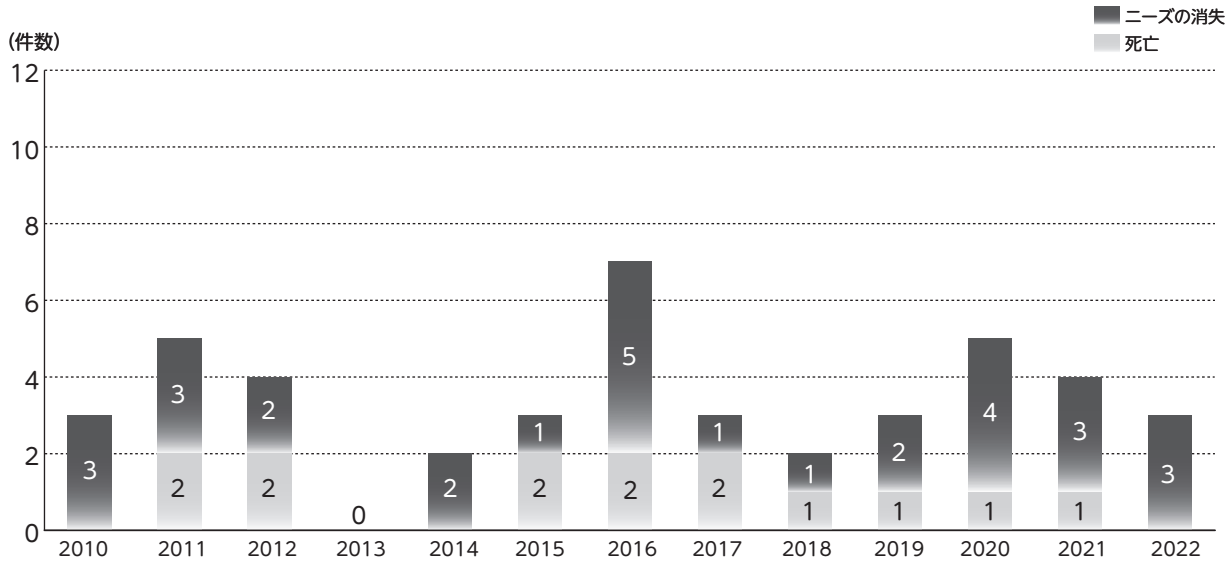


●クライエントの傾向と関わり

クライエントの傾向は、身体に何らかの障害をもちつつ在宅で生活をしている方で、単身の中高年の男性が占める割合が変わらず高い。ちなみに、継続派遣の 19 名中 15 名が男性の単身世帯、なんらかの障害がある方は、半身麻痺等による車椅子使用や杖歩行などの歩行困難が 9 名、精神に疾患等を持つ方が 13 名となっている。

クライエントとの関わりは、長期的な派遣が多く、7 年以上の関わりを持っているケースは休止中も含めると 12 名となっている。

活動の終了理由



7. 今後の活動にむけて

●コロナ禍での活動

昨年度に引き続き、COVID-19 の影響を大きく受け、活動の制限が必要な年であった。

訪問に関して、基本はクライエントと担当バディの両方が納得した場合においてのみ活動しており、訪問が難しい場合は、電話で話をするなど、コミュニケーションをとるように心がけた。普段は外出が目的のクライエントでも、自宅で会話だけを行う場合もあった。ただ、秋以降は、外出を再開するケースも増え、COVID-19 との付き合い方に変化があったように感じられた。しかし、COVID-19 の流行が収まったわけではないため、今後もクライエントとバディが不安を感じずに、安心できる活動を今後も目指して、調整を行っていきたい。

●活動の継続性と体制づくり

活動の継続にあたって、現在のクライエントは、身体や精神になんらかの障害を持っている方が多く、最近では HIV のみならず、高齢化や他の疾病に由来した身体の機能低下等がみられる方もある。単身者も多く、利用できる社会資源も少ないため、バディに様々な役割を期待されることがある。今後も、公的サービスを活用しつつ、それだけでは補えない部分をバディはできる範囲で補完し、クライエントの生活支援、生活の質の向上につがなる柔軟な活動を継続できればと考える。また、周囲の公的機関や関連機関とも連携し、お互いに役割分担をしつつ、相互の補完ができるような活動ができればと考える。

コーディネーターとして、来年度以降も、COVID-19 との付き合いは続くものとだと思われるため、予防行動をとりつつ、COVID-19 との付き合い方を模索し、活動できる環境を整えていければと考える。また病院での活動についても、可能な限り再開ができればと考える。

最後に、日頃から活動を続けていただいているバディ・スタッフのみなさま、今年度も活動にご協力いただきありがとうございました。COVID-19 が流行する中での訪問は、色々と気を遣いながらの訪問になったと思いますが、活動いただきありがとうございました。COVID-19 の影響で、なかなか活動に繋がれなかった方も、次年度以降でぜひ活動にご協力いただけるとうれしく思います。登録してから、時間や距離が空いた方も、気にせず遠慮なくご連絡ください。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（文責　バディ・コーディネーター　牧原）

(1) ぷれいす東京　相談サービス報告

ぷれいす東京では、HIV 陽性者、確認検査待ち / 要確認検査 / 判定保留の人、その周囲の人へ、電話や対面、E-mail/ 手紙などによる相談サービスを提供している。電話や対面による相談については、2009 年 4 月以降、厚生労働省の委託事業として、HIV 陽性者や確認検査待ちの人、その周囲の人のための専用の相談電話「ポジティブライン」0120-02-8341（月～土 :13:00 ～ 19:00）と、「対面相談サービス」（月～土 :12:00 ～ 19:00）を提供している。相談は原則匿名で行っている。対応は、HIV に関する電話相談や直接的なケアを担当してきた相談員（社会福祉士 / 医師）、3 人が担当している。2016 年度から、HIV 陽性の相談員による電話相談を毎週木曜日 15:00 ～ 18:00 に設け、シフトを組んで対応している。また、相談員の情報交換、業務確認を目的とした相談員ミーティングを定期的に開催（今年度は 4 回開催）。刑事事件等による身柄拘束者および受刑者との手紙によるやりとり「お手紙プロジェクト」も継続している。

＜陽性者相談員から　相談員 J ＞

今年度の当事者相談で印象的だったことは、確認検査待ちの方が当事者と話がしたくて当事者相談の時間帯に電話をかけてくることが複数件あったことと、陽性者やそのパートナーから U=U に関する相談が寄せられるようになったことです。

確認検査待ちの方からの相談内容は多岐にわたりましたが、多かったのは陽性判明直後の医療や諸手続き、周囲の者への通知等に関することと、長期的な生活に関することです。このような相談に対してこちらから伝える内容は他の相談員とほとんど変わらない事項ですが、自分や知り合いの陽性者の実例を交えながら当事者の言葉として伝えることを意識しています。そうすることで相談者が不安に思っていたことに具体的なイメージを持つことができ、確認検査の結果を待つ間の不安の軽減に役立てた部分もあるようです。

U=U に関しては言葉として知っていても詳しい内容を知らない相談者もいましたし、自分の知識が正しいかを確認したい相談者もいました。そうした相談には U=U の科学的な根拠を正しく伝えるようにしています。一方で U=U をしっかり理解できていても予防しない性行為には不安があるといった相談も何件か寄せられました。そうした相談に対しては、予防するかしないかは U=U とは切り離して当事者間で決める事柄なのでお互いの気持ちを大事にして話し合ってみてほしいと助言しています。

今後も当事者という特性をいかして寄せられる相談に応じていきたいと思います。

即日検査や郵送検査の普及に伴う、「確認検査待ち / 要確認検査 / 判定保留」の結果を受けとる人の増加を踏まえ、ぷれいす東京の web サイトに「確認検査 / 要確認検査 / 判定保留 結果待ちの人」に向けたページを作成し情報発信している。「誰にも話せない、どうしよう」「これからどうなるの」「結果が出るまでの過ごし方のコツ」といった不安に対するメッセージから、検査の情報、相談窓口の紹介などを行っている。

「確認検査 / 要確認検査 / 判定保留 結果待ちの人へ」
http://ptokyo.org/consult/pending_results

また、来日する外国人に向けた英語のサイトを 2017 年 12 月からぷれいす東京のホームページ上に公開しており、コンテンツの中には日本の医療制度や福祉制度、ビザについての FAQ（https://ptokyo.org/en/faq）がある。このページを見て、事務所に海外から相談メールが来ることが増えている。なお、メールでの相談は以下の集計には含まれていない。

＜お手紙プロジェクト 2022 年度報告　相談員 M ＞

対応件数：28 件（新規対応：3 名 / 継続：3 名）
対応相談員：3 名

今年度も主に手紙での相談対応を行なっています。必要時は拘置先へ面会、相談対応を行いました。

内容については、弁護士についての情報提供、社会保障・福祉制度の案内、出所後の住居相談、代行購入依頼、身元引受人への連絡などです。

最近、収監中の施設内プログラムでぷれいす東京のことを知ったとお手紙を下さった方がいました。私たちの知らないところで、私たちの活動を広めてくださっている方がいるというのは、とても嬉しいことでした。

必要とされる時に、必要なサポートが届くよう頑張りたいところですが、対応相談員の限りがあり、返信に時間がかかっているのが実情です。

昨年度の課題であった、相談対応ができるメンバーを増やし、体制強化するところまで今年度で達成できなかったので、次年度で構想している形を具体化したいと思っています。

刑に服しているという期間ではあっても、必要な医療を受けること、必要な情報を得ること、安心してまた社会復帰ができるよう、これらの権利は継続して保障されるもので、断ち切られることではありません。

これからも可能な限り、お手紙の中の仲間の声に対応していきたいと考えています。

■相談／連絡期間

2022年4月1日～2023年3月31日

■相談／連絡件数

		陽性相談員対応
電話による相談	1507件	(123)
対面による相談	300件	
手紙による相談	28件	
合計	1835件	

■相談者の背景

▼電話相談、対面相談（メール/fax/手紙は除く）
のべ合計1807件（男：1566 、女：184、TS/TG：57）

HIV陽性者	1506件	(1396：	53：	57)
パートナー/配偶者	59件	(36：	23：	0)
家族	65件	(14：	51：	0)
専門家	68件	(35：	33：	0)
その他	16件	(10：	6：	0)
確認検査待ち/判定保留	93件	(75：	18：	0)

「家族」の内訳（65）

きょうだい(32)、母親(24)、こども(8)、家族(1)

「専門家」の内訳（68）

医療機関(24)、福祉/行政関連(14)、地域団体(13)、就労関連(11)、法律関連(弁護士/警察)(5)、その他(1)

「その他」の内訳（16）

元パートナー(4)、友人/知人(3)、性的関係のあった人(3)、判定保留者の配偶者/きょうだい(2)、会社の同僚(1)、周囲(1)、判定保留かも(1)、パートナーの弟(1)

▼相談者の年代　(n=1807)

10代	8件
20代	41件
30代	157件
40代	760件
50代	490件
60代	144件
70代以上	34件
不明	173件

■ 新規相談（電話・対面）のまとめ（n=225）

属性		[男：177　女：48]
HIV陽性者	106	(100： 6)
パートナー/配偶者	22	(13： 9)
家族	11	(4： 7)
その他/不明	13	(8： 5)
専門家	23	(13： 10)
確認検査待ち/判定保留	50	(39： 11)

家　族　母親(7)、きょうだい(3)、こども(1)

その他　友人/知人(3)、性的関係のあった人(3)、判定保留者の配偶者/きょうだい(2)、会社の同僚(1)、パートナーの弟(1)、元パートナー(1)、周囲(1)、判定保留かも(1)

専門家　就労関連(8)、福祉/行政関連(6)、医療機関(5)、法律関連（弁護士/警察)(2)、地域団体(1)、その他(1)

居住地/発信地	
関東	152
近畿	20
中国/四国	15
九州/沖縄	11
東海	11
北海道/東北	11
甲信越/北陸	4
海外	1

情報提供者	
情報・ネットワーク（ネット・冊子等）	133
医療や行政などの専門家	27
地域のネットワーク（電話相談・団体）	27
人的ネットワーク（他陽性者・家族等）	19
その他	10
不明	9

検査を受けた機関（n=104）	
病院（外来）	57
保健所/検査所	21
病院（入院）	13
郵送/自主検査キット	3
献血	1
その他	4
不明	5

検査のきっかけ（n=98）	
自発的（症状なし）	28
自発的（症状あり）	21
その他の症状（医師の勧め）	19
術前検査	11
HIV 関連の症状（医師の勧め）	6
性的接触があった人からの通知	2
妊産婦健診	2
PrEP 関連の検査	1
献血	1
その他	7

■電話/対面相談によせられた内容項目

HIV 陽性者と確認検査待ち / 要確認検査 / 判定保留の結果待ちの人からの相談について、相談記録をもとに内容を 1 ～ 9 の項目に分類し、詳細をまとめた。複数の項目に該当する相談内容であった場合は、それぞれの項目に含めて集計している。

周囲の人の相談、専門家からの相談や連携については、それぞれの属性で内容をまとめた。

1　検査や告知に関する相談……108
2　告知直後の漠然とした不安……128
3　対人関係に関する相談……242
4-1　生活に関する相談……563
4-2　制度に関する相談……304
5　心理や精神に関する相談……788
6　病気や病態の変化や服薬……210
7　医療体制や受診に関する相談……132
8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス……9
9　連絡等のコミュニケーション……831

▼ 周囲の人からの相談……304
▼ 専門家（外部）からの相談や連携……141

1　検査や告知に関する相談：108

1　検査や告知に関する相談	
判定保留時の不安や対応	95
検査機関の対応	4
検査の信憑性	4
告知の状況	3
その他	2

2　告知直後の漠然とした不安：128

2　告知直後の漠然とした不安	
漠然とした不安や混乱	47
身体状況に関する不安	36
生活のイメージ	31
他陽性者との交流	7
プライバシー不安	6
その他	1

3　対人関係に関する相談：242　（項目は複数選択）

3　対人関係に関する相談	
相手との関係性	125
トラブル	41
HIV の通知	24
恋愛、結婚や離婚、子づくりなど	17
性に関する相談 （sex やセクシュアリティ、セイファーセックス）	17
プライバシー	4
検査（受検勧奨等）	2
その他	12

相談の対象者（n=209）	
パートナー / 配偶者	51
友人 / 知人	31
周囲	30
家族	29
性的関係のあった人	15
元パートナー	14
会社	12
他陽性者	10
NGO スタッフ	4
行政	3
その他	10

4-1 生活に関する相談：563

4-1　生活に関する相談	
就労 / 就学	300
経済的な問題	71
外国人	66
住宅問題 / ホームレス（野宿生活）	49
法律問題	32
生命保険	18
海外渡航（留学）/ 海外からの帰国	15
健康診断	3
医療費	2
その他	7

4-2 制度に関する相談：304

4-2　制度に関する相談	
障害者の制度利用 （手帳取得、自立支援、重度医療、障害者控除、施設入所）	112
生活保護	104
健康保険（高額療養、傷病手当、付加給付、後期高齢者医療）	32
障害者雇用	31
障害年金	13
プライバシー	3
サービス利用時の対応	3
ビザ	2
その他	4

5　心理や精神に関する相談：788

5　心理や精神に関する相談	
精神疾患（抑うつ障害、適応障害、統合失調症、その他）に関する相談	544
薬物依存	115
その他の依存傾向 （アルコール、セックス、ギャンブル、対人、その他）	49
精神科の受療に関する状況	22
精神的な不安定さ	22
自殺念慮	14
人間関係の閉塞感	12
ストレス	6
HIV の受容	1
その他	3

※「精神疾患」は、本人から病名や通院履歴等の申告があり、その時の相談内容に影響していると相談員が判断した場合に選択

6　病気や病態の変化や服薬：210

6　病気や病態の変化や服薬	
その他の疾患	117
服薬の継続	39
入院中の病態	16
CD4 の変化	10
HIV の関連症状	7
副作用	7
投薬前の不安	2
その他	12

・その他の疾患（順不同）（本人の申告に基づく）
風邪、B 型 /C 型肝炎、梅毒、大腸がん、前立腺がん、脳腫瘍、脳梗塞、白内障、花粉症などのアレルギー症状、下痢、帯状疱疹、潰瘍性大腸炎、ヘルニア、糖尿病、男性更年期障害、脊椎管狭窄、頸動脈狭窄、クローン病、ラムゼイハント症候群、乾癬、逆流性食道炎、水虫、湿疹、その他

・HIV の関連症状（順不同）
進行性多巣性白質脳症の後遺症、ニューモシスチス肺炎、カンジダ症

7　医療体制や受診に関する相談：132

7　医療体制や受診に関する相談	
医療従事者とのコミュニケーション	48
医療・検査機関の選択	41
他科受診	26
歯科受診	7
通院や服薬の中断・拒否	5
精神科受診	1
その他	4

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス：9

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス	
ぷれいす東京のサービスの問い合わせ	3
その他の機関・リソースの利用	2
地域の支援団体	2
外国の情報（ビザ、医療機関、医療状況）	1
他陽性者との交流	1

9　連絡等のコミュニケーション：831

9　連絡等のコミュニケーション	
近況報告	524
ネストプログラムの利用	58
利用登録	39
面談の調整等	26
積極的な協力・参加	13
その他	171

その他のうちコロナ関連の内容：105
コロナ話題（58）、ワクチン接種（29）、コロナ感染・療養（7）、コロナ疑い（5）、コロナ感染不安（5）、コロナ検査（1）

▼ 周囲の人からの相談：304

(1) 検査や告知に関する相談	7
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	25
(3) 対人関係に関する相談	111
(4) -1 生活に関する相談	25
(4) -2 制度に関する相談	8
(5) 心理や精神に関する相談	39
(6) 病気や病態の変化や服薬	24
(7) 医療体制や受診に関する相談	16
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	6
(9) 連絡等のコミュニケーション	42
その他	1

相談者の背景は P41 を参照。

▼ 専門家（外部）からの相談や連携：141

(1) 検査や告知に関する相談	0
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	3
(3) 対人関係に関する相談	34
(4) -1 生活に関する相談	27
(4) -2 制度に関する相談	15
(5) 心理や精神に関する相談	1
(6) 病気や病態の変化や服薬	5
(7) 医療体制や受診に関する相談	13
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	3
(9) 連絡等のコミュニケーション	39
その他	1

相談者の背景は P41 を参照。

■1年を振り返って

・COVID-19の影響

今年度も COVID-19 の影響を受けた 1 年だったが、昨年度に比べると COVID-19 に関する相談件数は減少した。しかし新規相談の中では、保健所での検査の中止や機会の減少の影響を受けて、自分で感染の疑いを持ち検査したい方、周囲から陽性の通知を受けた方、郵送検査で陽性疑いになった方などから、検査を受けたかったがなかなか受けらなかったという話を聞く機会があった。また、発症等で病院に入院している方から、面会中止の不便さや入院中の孤立感 / 孤独感についての相談もあった。

・相談件数と内容の変化

昨年度と比較して、電話相談は件数の減少があったが、その他では大きな変化は特になかった。

相談内容では、昨年と比べて以下のような変化がみられた。

検査や告知に関する相談では、確認検査 / 要確認検査 / 判定保留の結果待ちの人からの相談が増加していた。検査を受けた場所は、病院の外来が多く、自主的な検査ではない場面で通知を受け、混乱した方が多かった印象だった。男性の相談者が多く、女性が 2 割程度だったが昨年度よりは 1 割増えていた。

また、相談が増えた内容として、生活保護に関する相談、健康保険に関する相談、外国人の方からの相談、住宅の購入、といった相談があった。COVID-19 による行動制限が緩和され、日本に入国する外国人や海外に行く日本人の増加に伴い、医療制度や福祉に関する相談も増えたことが考えられた。来日予定 / 来日した外国人から、日本での治療や薬の入手に関する相談も増えた印象であった。

件数は減少していたが、精神疾患に関する相談も多く、COVID-19 の流行下での、行動制限やコミュニケーション不全等で生じるストレスが、メンタルヘルスの悪化にも影響しているように思われた。また、薬物やアルコール、セックスなど、依存症をもつ方からの相談もあり、逮捕された後に連絡が来ることもあった。

ここ数年は、抗 HIV 薬や副作用に関する相談は少なかったのだが、今年は注射薬の承認があったため、7 月以降でそれに関する相談や情報提供を行う機会が多くあった。

・今後に向けて

今年度から、海外の行き来に関して、行動制限が緩和されてきており、徐々に来日する外国人が増えている。今後も外国人からの相談は増えるものと思われ、他の外国人支援の団体や医療機関とも連携し支援をしていきたい。また、精神疾患のある方や薬物使用者、不安定な就労形態 / 経済状態の方などの相談も多いため、周囲の医療機関や支援機関と役割分担をしながら、HIV 陽性者の支援に関われればと思う。　　（文責：牧原、生島、福原）

■相談員から

メンタルヘルス、依存についての相談が、ある一定割合で寄せられていた。その中には、過去に警察による捜査や起訴された人たちがいて、実際に刑に服したのち、地域に戻る際の生活再建をお手伝いをすることもある。また、外国籍のHIV陽性者からの医療アクセスに関する相談が定期的に寄せられており、コロナ禍による制限が緩んで、来日する人たちが徐々に増えていることを実感する。そうした人たちとのメールやSNSを介したやりとりについては、残念ながらこの報告には反映していない。外国籍の学生や労働者と日本社会がどう向き合っているのかを垣間見る場面もあった。私たちは、HIV陽性者を通して、そういった人たちの医療アクセスの課題を目の当たりにしているのだ。(生島)

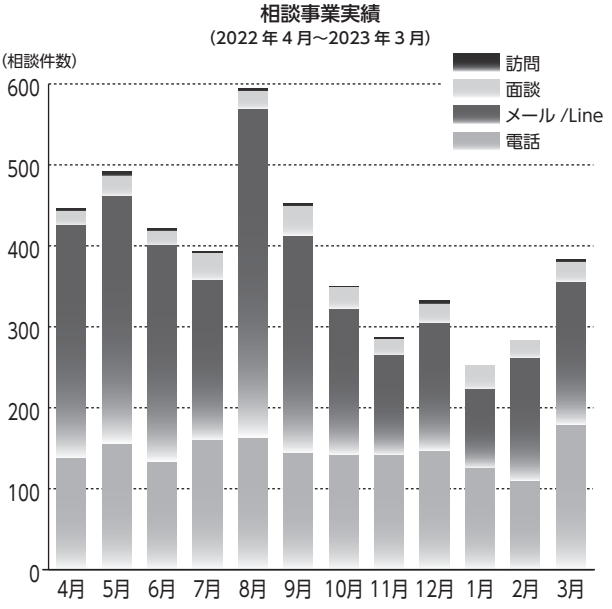
電話相談において、今年度印象に残ったのは、地方在住の方、確認検査待ち/要確認検査/判定保留の方、発症判明の方、陽性者の周囲の方からの相談であった。まだ、COVID-19の影響を受ける中で、なかなか保健所で検査が受けられず隣町まで検査にいった方の話や、自分で医療機関を探して検査を受けた方の話を聞く機会があり、地方の大変さを感じることがあった。陽性者から周囲への通知の相談がある一方で、陽性者のパートナーや配偶者/家族から、通知を受けた後に、他者に相談できない大変さを聞くこともありHIV特有の難しさを感じる機会があった。加えて、数は少ないが在宅療養をしている方、それを支える家族やパートナーから話を聞く機会もあり、いろいろな方が地域で生活していることを想起させられた。U=Uについて、相談者の多くがすでに認知していることが増えており、情報の広がりを感じる一方、社会の認知とのズレを感じるようになっている。(牧原)

(2)HIV陽性者等のHIVに関する相談等支援事業

本事業は、厚生労働省の受託事業として14年目となった。今年度も任意団体 CRIATIVOS(P-LATINO)とぷれいす東京の2団体にて運営を行った。

「HIV陽性者等のHIVに関する相談・支援一式(関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業)」は、HIV陽性者(エイズ患者を含む)やパートナー、家族を対象にピア・カウンセリングや電話・対面による相談サービス等を提供することを通して、対象者の社会生活を支援し、生活の質を高めることを目的としている。

●2団体合計の月別相談件数の実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問	3	6	4	3	3	3	2	3	4	0	0	3
面談	18	25	18	33	22	37	26	20	24	30	22	25
メール/Line	288	306	267	198	407	269	181	123	158	97	152	177
電話	137	155	133	159	162	143	141	141	146	125	109	178
合計	446	492	422	393	594	452	350	287	332	252	283	383

※メール相談はぷれいす東京のものは含まない。

●在日外国人への相談サービスの提供
(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

□外国語相談(再委託)による相談者の合計(のべ件数):2888件(ぷれいす東京の数字は含まず)

今年度もCRIATIVOS(P-LATINO)が、電話、メール、LINE、訪問/同行(Zoomを含む)による相談を行った。クリアチーボスとぷれいす東京が共同で、LINE上にP-LATINOの公式アカウントとwebを作成、2020年の7月よりLINEをメインにした相談を行っている。

主な相談者は、HIV陽性者/判定保留者が2541件、次いで検査希望が277件、専門家2件、その他68件だった。確認検査の結果を待っている間の相談も40件あった。言語によるコミュニケーションの課題をもつ方が多く存在し、そうした方のケアに貢献していると思われた。

□外国語相談（再委託）での相談者の属性（のべ件数）

HIV陽性者/判定保留者	： 2541 (	88.0%)
検査希望者	： 277 (	9.6%)
パートナー/家族	： 0 (	0.0%)
専門家	： 2 (	0.1%)
その他	： 68 (	2.3%)
合計	： 2888	

□外国語相談（再委託）でのサービス対象者の言語（のべ件数）

昨年度より、外国語対応がCRIATIVOS（P-LATINO）だけになったこともあり、対応言語（国）は、ブラジルが多く、次いでペルー、日本、スペイン語圏となった。

ブラジル	： 2351 (	81.4%)
ペルー	： 382 (	13.2%)
日本	： 84 (	2.9%)
スペイン語圏	： 71 (	2.5%)
合計	： 2888	

□外国語相談（再委託）への相談手段（のべ件数）

相談や支援の手段は、LINEが最も多く、次いで電話、メールとなった。COVID-19の影響をうけ、訪問による支援は少ない状況が続いた。相談者の居住地は広域に及ぶため、LINEや電話による対応が中心となった。

電話による相談（N=231）

HIV陽性者	： 204 (	88.3%)
検査希望者	： 20 (	8.7%)
専門家	： 2 (	0.9%)
その他	： 5 (	2.1%)
合計	： 231	

メールによる相談（N=24）

HIV陽性者	： 11 (	45.8%)
検査希望者	： 13 (	54.2%)
合計	： 24	

LINEによる相談（N=2599）

HIV陽性者	： 2292 (	88.2%)
検査希望者	： 244 (	9.4%)
その他	： 63 (	2.4%)
合計	： 2599	

訪問／同行（N=34）

HIV陽性者	： 34

□外国語相談（再委託）のサービス対象者の年代（N=2888）

対象者の年代

10代	： 0 (	0.0%)
20代	： 637 (	22.1%)
30代	： 682 (	23.6%)
40代	： 509 (	17.6%)
50代	： 467 (	16.2%)
60代	： 329 (	11.4%)
70代以上	： 0 (	0.0%)
不明	： 264 (	9.1%)

□外国語相談（再委託）のサービス対象者の居住地域（N=2888）

北海道	： 0 (	0.0%)
東北	： 0 (	0.0%)
東京	： 976 (	33.8%)
関東甲信	： 912 (	31.6%)
東海	： 388 (	13.4%)
北陸	： 522 (	18.1%)
近畿	： 28 (	1.0%)
中国/四国	： 2 (	0.1%)
九州/沖縄	： 0 (	0.0%)
海外	： 48 (	1.6%)
不明	： 12 (	0.4%)

□外国語相談（再委託）の電話による相談対応時間（N=231）

相談時間は、30分未満：221（95.7%）、30分～60分：8（3.5%）、60～90分：1（0.4%）、90分以上：1（0.4%）となった。

□外国語相談（再委託）の相談内容（N=2888）

相談内容は、「医療体制・医療との関わり・連絡」768件、「社会保障等行政に関する相談」495件、「HIV及びHIV検査に関する相談」306件、「心理や精神に関する相談」254件、「他のSTIや医療の相談」250件、「治療に関する相談」240件、「通訳/翻訳」233件、「服薬・副作用に関する相談」131件、「医療費や支払に関する相談」48件、「その他」163件となった。

相談手段別でみると、電話相談では、「医療体制・医療との関わり・連絡」69件、「社会保障等行政に関する相談」43件、「通訳/翻訳」39件、「治療に関する相談」26件等となった。

メール相談では、「HIV及びHIV検査に関する相談」13件、「医療体制・医療との関わり・連絡」9件等となった。

LINEの相談では、「医療体制・医療との関わり・連絡」690件、「社会保障等行政に関する相談」452件、「HIV及びHIV検査に関する相談」271件、「心理や精神に関する相談」245件、「他のSTIや医療の相談」237件となった。その他にも、「治療に関する相談」「通訳／翻訳」「服薬・副作用に関する相談」「その他」など幅広い相談が寄せられていた。

訪問／同行では、「通訳／翻訳」が 34 件だった。

□外国語相談のまとめ

今年度も COVID-19 の影響を受ける中で、検査に関する相談が多く寄せられていた。保健所の HIV 検査は、各地で中止になっている場合があるため、相談者に代わって検査をしている病院や検査機関を探し、電話で問い合わせることがあった。通訳の同行は制限がある中ではあったが、依頼があれば対応した。来日する外国人が、昨年度より増えた印象があり、来日後や来日前の相談に対し、医療や福祉の制度の情報提供をしたり、病院と連絡調整をするなどの機会が増えていた。

P-LATINO の LINE 上のページ

部門報告（研究・研修）

研究・研修部門では、当事者の視点を生かした独自の研究や、受託研究などのさまざまな調査研究と、HIV/エイズやセクシュアリティ等をテーマにした講師派遣や、研修の企画・運営などを行っています。

担当…生島、牧原、大槻

研 究

ぷれいす東京の研究班

2021年度に開始した、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究」の3か年中2年目を終えました。理事の樽井（研究代表者）、代表の生島（研究分担者）を始めとするぷれいす東京スタッフが調査研究を実施しています。

・地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究（研究代表者：樽井 正義）

「HIV陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討」

研究分担者：樽井 正義（ぷれいす東京 理事／慶應義塾大学 名誉教授）

「MSMを対象としたメンタルヘルスと性行動に関するWeb調査」

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京 代表）

「薬物使用の問題を抱えるHIV陽性者への支援のための精神保健福祉センターとのネットワークモデルの検討」

研究分担者：大木 幸子（杏林大学保健学部 教授）

「MSMを対象とした健康のためのコミュニケーション支援ツールの開発と評価」

研究分担者：野坂 祐子（大阪大学大学院人間科学研究科 准教授）

「ゲイコミュニティにおける性行動および予防啓発に関する動向の把握と効果評価」

研究分担者：塩野 徳史（大阪青山大学健康科学部 准教授）

くわしくは…

地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト

「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」
https://www.chiiki-shien.jp/

LASH Love Life and Sexual Health

「Love Life and Sexual Health（LASH）」
https://www.lash.online/

健康ってたいし！ STAY HEALTHY カラダもメンタルも。

「StayHealthy」
https://stayhealthy.tokyo/

地域における MSM の HIV 感染・薬物使用予防策と支援策の研究

研究代表者：樽井 正義（ぷれいす東京／慶應義塾大学）

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）、大木 幸子（杏林大学保健学部）、
野坂 祐子（大阪大学大学院人間科学研究科）、塩野 徳史（大阪青山大学健康科学部）

「MSM を対象としたメンタルヘルスと性行動に関する Web調査」では、ウェブによる自己回答式アンケートに、複数の GPS 機能付き出会い系アプリと SNS を通じて参加者を募集し、性行動、予防行動（コンドーム使用と検査受検）、HIV の知識と意識、メンタルヘルス、飲酒と薬物使用等について質問をした（2016 年に次ぐ 2 回目の LASH 調査）。6,701 人からの回答を単純集計し、幼少期の逆境体験やソーシャルサポートとの関連について解析を行う準備を整えた。

「ゲイコミュニティにおける性行動および予防啓発に関する動向の把握と効果評価」では、昨年度のコミュニティセンターを起点とする調査に次いで、今年度はアンケートモニター登録の成人男性から 2 段層化抽出した 94,011 人にスクリーニング調査を行い、MSM の 5,010 人を対象に本調査を実施した。昨年度は 20 ～ 30 代が回答者の 60%弱に対して今年度は 40 ～ 50 代が 60%強、コンドーム常用率は約 20%と 30%、検査受検経験は約 70%と 30%だった。

「MSM を対象とした健康のためのコミュニケーション支援ツールの開発と評価」では、コミュニケーションスキルの向上をはかる 4 つの動画教材と解説の冊子を作成して、その評価を行った。個人使用に加えてワークショップ等での活用可能性が示唆され、支援者向けの解説の開発が課題とされた。

「薬物使用の問題を抱える HIV 陽性者への支援のための精神保健福祉センターとのネットワークモデルの検討」では、精神保健福祉センターの相談と回復プログラムの利用経験がある HIV 陽性の MSM にインタビュー調査を行い、利用の経緯、利用継続の理由、自身のセクシュアリティと HIV ステータス開示の意向、回復にとっての意義等に関する概念を抽出した。これらの概念と、昨年度に相談担当者への面接調査から得られた支援の姿勢、方法、継続における配慮点と対応を検討した。

「HIV 陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討」では、薬物使用と感染症罹患とを予防する情報を提供する対象集団は、その必要性と実施可能性とを考慮して薬物事犯保護観察対象者とし、感染症、感染予防、検査の基礎情報および相談と支援の窓口情報を内容とするパンフレットを作成した。

ぷれいす東京スタッフが研究分担を行う研究班

ぷれいす東京のスタッフが研究に協力した厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究」（研究代表者：水島大輔（国立研究開発法人国立国際医療研究センター））並びに同「職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の構築に向けた研究」（研究代表者：横幕能行（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター））は、2022 年度に最終年度の研究を実施しました。

日本在住 MSM の PrEP（曝露前予防）に関する意識や行動に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

コミュニティ向けの PrEP に関する啓発イベントを、東京レインボープライド 2022、金沢レインボープライド、九州レインボープライド（福岡市）、community center ZEL（仙台市）で実施した。浜松市で日本エイズ学会が開催された際には、地元の MSM 向けの学習会を開催した。

また、昨年は日本エイズ学会「PrEP 導入準備委員会」による医療従事者向け・支援者向けの手引き、利用者向けの PrEP ガイドと 2 種のツールを制作したが、それらを解説するオンライン・イベントを 2 回開催した。12 月 13 日は医療者、行政向けに「PrEP 利用の手引き」に関するセミナーをオンライン配信した。講師は研究代表者の水島大輔医師（国立国際医療研究センター）、手引き書をまとめた谷口俊文医師（千葉大学医学部附属病院）が担当し、SH 外来で患者対応を行う高野操看護師も登壇した。12 月 16 日には「PrEP ユーザー / 利用者向けガイド」をゲイメディア、支援者向けに開催した。谷口医師、高野看護師が登壇し、山口正純医師がレクチャーを行った。さらに、PrEP 利用者としてパフォーマーのラビアナ氏が経験談を共有した。

利用者ガイドをさらに簡潔な内容にまとめたポケット・ガイドブックを発行し、全国のコミュニティセンターに配布した。eBook 版も制作し、インターネット上でも内容を閲覧できるようにした。

「PrEP in JAPAN」
HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究班
https://prep.ptokyo.org/

職場における HIV 検査実施に必要とされる配慮と環境に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

本研究班では 2017 年より職場における啓発・検査プログラムを実施し、HIV 検査機会と相談支援、HIV/ エイズに関する情報の提供を通じ、HIV ステータスにかかわらず働きやすい職場と社会環境づくりを提言している。

今年度は、職域検査を安心して実施できるようにすることを目的に制作した人事等担当者、従業員向け教材の広報強化と、相談窓口の拡充を行った。郵送 HIV 検査の受検前後には特にきめ細やかなサポートが必要であるが、スマートフォン等のメッセンジャーアプリが活用可能であることが確認された。

「BRTA JAPAN」
職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の構築に向けた研究班
https://brta.jp/

ぷれいす東京スタッフによる調査研究で、2022 年度中に発表（共同発表を含む）を行った学会は以下の通りです。

学会発表

・第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会（2022 年 11 月 18 日～ 11 月 20 日）

「ネスト・プログラムのオンライン化についての考察」

発表者：加藤 力也

「NPO による HIV 陽性／勾留者への手紙による相談・支援『お手紙プロジェクト』～報告と考察」

発表者：生島 嗣

講師派遣・研修

ぷれいす東京では、HIV/エイズの一般知識、HIV陽性者支援、性教育やセクシュアリティ、人権などをテーマに、学校や企業、専門家の集まりなどへ向けた講師派遣や研修の企画・運営を行っています。講師派遣では、HIV陽性者の支援経験が豊富な相談員やセクシュアリティの専門家、性教育の専門家などが出講しています。企業や教育機関、保健所を含む行政機関、医療機関、国際協力団体などの研修を受託し、独自の研修企画の立案も行っています。

くわしくは…

講師派遣や研修をご希望の場合は、ぷれいす東京 Web サイト「講師派遣・研修の依頼」(https://www.ptokyo.org/know/lecturers) からご連絡ください。

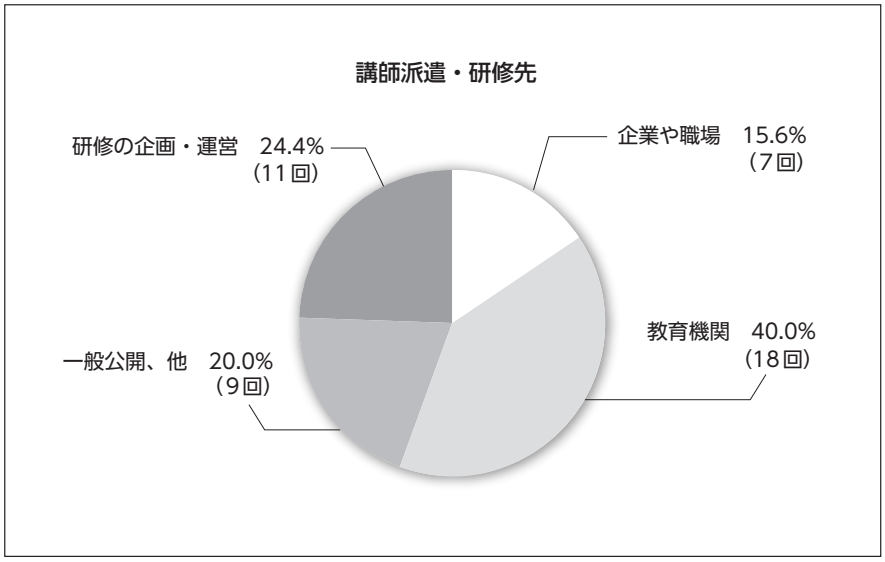
2022 年度の講師派遣・研修実績は以下の通りです。

月	日	担当	内容	参加者数 (人)				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
4月	3日 (日)	牧原・加藤	青年海外協力隊 課題別派遣前訓練 (オンライン)					1
	22日 (金)	生島	TRP2022「LGBTQ と感染症〜 HIV 予防薬 "PrEP" (プレップ) 認可はいつになる?〜」(ハイブリッド)				*	
5月	8日 (日)	生島	LGBT ハウジングファースト オンラインイベント「LGBT と難民」(オンライン)				75	
	12日 (木)	生島・加藤	昭和大学			121		
	20日 (金)	加藤	国際医療福祉大学			35		
6月	4日 (土)	生島	学習院大学			60		
	11日 (土)	生島	学習院大学			60		
	11日 (土)	生島	鹿児島 HIV 感染症研究会 (オンライン)		40			
7月	5日 (火)	加藤	国立東京工業高等専門学校			213		
8月	3日 (水)	生島	東京司法書士会 (オンライン)		15			
	4日 (木)	生島	PrEPの医療者向け研修会 (オンライン)					100
	19日 (金)	大槻	東京障害者職業センター リワークセンター東京「LGBT 研修」		52			
	27日 (土)	加藤	第 18 回 HIV/AIDS ソーシャルワーカー・ネットワーク会議、研修会 (オンライン)		25			
	29日 (月)	生島	東北ブロック「HIV 検査担当者向け研修会」(オンライン)					14
9月	15日 (木)	生島	埼玉県エイズ専門研修					18
	16日 (金)	生島	金沢プライドパレード2022「HIV/性の健康 トークセッション」				60	
10月	1日 (土)	生島	カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク 第 8 回勉強会「『まず知ることから』HIV/ エイズ支援現場からのメッセージ」(オンライン)				20	
	2日 (日)	牧原・加藤	青年海外協力隊 課題別派遣前訓練 (オンライン)					2
	17日 (月)	生島	千葉県					14
	20日 (木)	生島・加藤	AIG グループ		110			
11月	4日 (金)	加藤	横浜市立大学附属病院 (オンライン)		14			
	16日 (水)	生島	「Fast Track Cities Workshop Japan 2022」(ハイブリッド)				80	
	20日 (日)	生島	「恋愛やセックス〜性の健康とーく in 浜松」(ハイブリッド)					*
	30日 (水)	加藤	明治学院中高大連携プログラム ボランティアカフェ「HIV とともに生きる」			8		

※「*」は、参加者数のデータがないもの。

月	日	担当	内容	参加者数（人）				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
12月	1日（木）	生島	明治大学「セクシュアル・ヘルスから捉えるジェンダー・セクシュアリティの多様性と不平等――30年の直接支援の現場から」			60		
	11日（日）	生島	「ふたりぱぱ・みっつんと話そう！ ～『RESPECT』とスウェーデンの性教育の今～」（オンライン）				*	
	12日（月）	加藤	東京女子大学			80		
	12日（月）	生島	東京都エイズ予防月間オンライン講演会「HIV/エイズの今 ～あなたの知識と意識をアップデート～」（オンライン）				158	
	13日（火）	生島	PrEP利用者・支援のためのオンラインセミナー 1（医療機関、行政向け）「『日本におけるHIV感染予防のための曝露前予防（PrEP）利用の手引き』紹介」					106
	16日（金）	生島	PrEP利用者・支援のためのオンラインセミナー 2（ゲイメディア、支援者向け）「『PrEPユーザー / 利用者向けガイド』紹介」					28
	19日（月）	生島	武蔵野大学（オンライン）			5		
1月	6日（金）	加藤	群馬大学			100		
	8日（日）	牧原・加藤	青年海外協力隊 課題別派遣前訓練（オンライン）					1
	11日（水）	加藤	上野学園中学校・高等学校			115		
	30日（月）	加藤	港区立港陽中学校			64		
2月	3日（金）	生島	旭川医科大学病院（オンライン）		60			
	18日（土）	生島	金沢レインボープライド「UPDATE!?」				150	
	23日（木・祝）	生島	community center ZEL 性感染症勉強会「What's "UP"?」（オンライン）				5	
3月	3日（金）	大槻	台東区立駒形中学校			123		
	6日（月）	加藤	大田区立糀谷中学校			160		
	6日（月）	大槻	台東区立桜橋中学校			60		
	7日（火）	加藤	港区立六本木中学校			70		
	7日（火）	加藤	大田区立東蒲中学校			140		
	9日（木）	加藤	大田区立安方中学校			170		
	17日（金）	生島・加藤	神奈川県（オンライン）					32
参加者数合計（人）				0	316	1644	548	316
実施回数合計（回）				0	7	18	9	11

※「*」は、参加者数のデータがないもの。



相談員派遣

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデル構築に関する研究」（研究代表者：北島勉（杏林大学））の一環として、在留外国人を対象とした HIV 検査会に相談員を派遣しました。

・2022 年　6 月 26 日（日）... 検査 16 件、相談 8 名
・2022 年 11 月　5 日（土）... 検査　7 件、相談 4 名
・2023 年　2 月　4 日（土）... 検査　9 件、相談 4 名
・2023 年　3 月　4 日（土）... 検査　9 件、相談 4 名

（文責：大槻）

寄付のお願い

ぷれいす東京は HIV/ エイズとともに生きる人たちが自分らしく生きられるように、多様な活動を展開しています。
私たちの活動を応援してください。

▼ 寄付で応援する

ぷれいす東京を財政面から応援してください。匿名でも寄付いただけます。

単回の寄付
クレジット決済、郵便振替、銀行振込、現金などでいつでもご寄付いただけます。

毎月の寄付（クレジット決済）
毎月 1,000 円、2,000 円、3,000 円、5,000 円、10,000 円など、定期引落の金額を選べます。

定期引落

送金方法

・クレジットカード　ぷれいす東京 Web サイトから
https://ptokyo.org/support/donation#credit

クレジットカードによる寄付

・ゆうちょ銀行振替口座　00160-3-574075　「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※送金される際、通信欄に寄付か会費納入かご一筆ください。専用の振替用紙もあります。

・三井住友銀行　高田馬場支店　普通預金　2041174　「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※銀行振込の場合、名前・住所などのご連絡をいただかないと、
お礼や寄付金控除の案内等ができません。
ご希望の場合はメールフォームをご利用ください。

メールフォーム

・事務所で寄付することもできます。事前にご連絡ください。（TEL:03-3361-8964）

▼ 賛助会員になって応援する

毎年継続して寄付をすることでぷれいす東京を支えていただく会員です。
合わせて認定 NPO サポーターになることもできます。
年会費（4 月～翌年 3 月）
個人賛助会員（一口）1 万円　　団体賛助会員（一口）2 万円
詳しくは、https://ptokyo.org/support/supportingmembers

賛助会員

※ 寄付 / 賛助会費振込の際はぜひ「認定 NPO サポーター」に！

2019 年 12 月 3 日に認定 NPO 法人になりました。
認定 NPO 法人への寄付は、寄付額に応じた所得税の税額控除が受けられます。賛助会費も控除対象です。法人が寄付した場合は、損金算入限度額の枠が拡大されます。
また、遺産を相続し、そこから寄付をした金額は非課税になります。

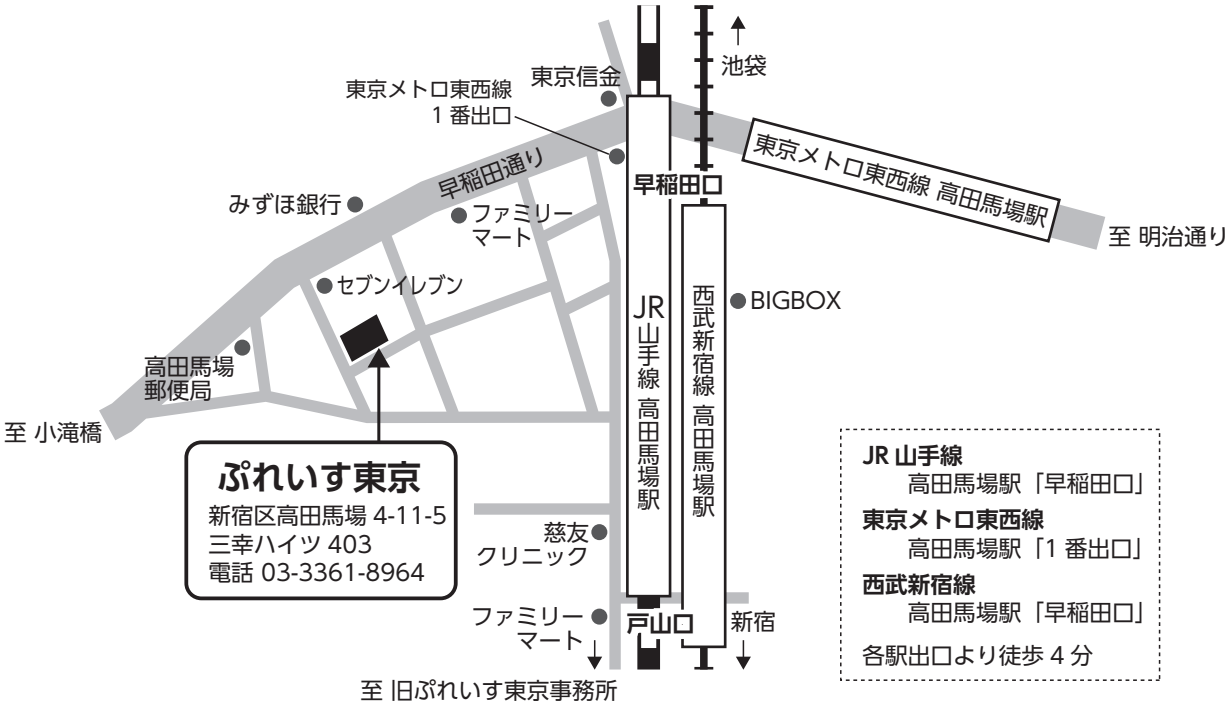
認定 NPO 法人になることで寄付が増え、団体の安定に繋がることを期待しています。認定 NPO 法人を継続するためには、年間（4 月～翌年 3 月）3,000 円以上の寄付者が毎年 100 人以上必要です。
ご協力いただける方は、寄付や賛助会費を振り込まれる際、「認定 NPO サポーター希望」
「名前 / 住所（自宅）（団体の場合は、団体名と所在地）」をお知らせください。
詳しくは、https://ptokyo.org/support/authorizednpo

認定 NPO サポーター

▼ チャリボンで寄付する

https://www.charibon.jp/partner/ptyo/
引越しなどで不要になった本・CD・DVD などを「チャリボン」に送ると、
その売りあげ金がぷれいす東京に寄付されます。
読み終わった本などを処分しようと思っているみなさま、どうぞご協力をお願いします。

チャリボンで寄付



ぷれいす東京　2022年度 年間活動報告書

2023 年 5 月 27 日発行

発行　特定非営利活動法人　ぷれいす東京
Positive Living And Community Empowerment TOKYO
〒 169-0075　東京都新宿区高田馬場 4 - 11 - 5　三幸ハイツ 403
TEL：03-3361-8964　FAX：03-3361-8835　E-mail：office@ptokyo.org
ゆうちょ銀行振替口座：00160-3-574075「特定非営利活動法人　ぷれいす東京」
URL：https://www.ptokyo.org/
SNS：https://linktr.ee/PLACETOKYO
印刷　株式会社翔美

認定NPO法人 ぷれいす東京
あなたのアクションが誰かの力に！
https://ptokyo.org/weare/